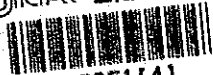


社会開発協力部報告書

JICA  
105  
737  
SCF  
LIBRARY



JICA LIBRARY



1106051(4)

25176



中国道路交通管理幹部  
訓練センタープロジェクト  
巡回指導調査団報告書

平成4年10月

国際協力事業団

国際協力事業団

25176

## 序 文

本プロジェクトは、中華人民共和国が江蘇省無錫市に設置した『中国道路交通管理幹部訓練センター』において、同国の交通管理技術の向上を図るため全国の交通管理幹部の訓練を実施し、この分野における技術移転を進めるものである。

国際協力事業団の社会開発分野では、中国に対する3番目のプロジェクト方式技術協力案件として昭和63年（1988年）11月にスタートした本プロジェクトは、その直後のいわゆる天安門事件などの影響、日中双方の考え方の違いなどを乗り越えて、成果を収めつつある。

プロジェクト開始以来現在まで、1990年には計画打合せ調査団を、また、1991年には巡回指導調査団を派遣し、無錫のプロジェクト現場にて日中合同委員会を開催し、プロジェクト実施上の各種問題点について協議を行った。

協力期間の終了を1年余り後にひかえて、本プロジェクトの進捗状況を詳細に把握するとともに、今後の協力のあり方を協議するため、このたび警察庁長官官房審議官（交通局担当）太田利邦氏を団長とする巡回指導調査団を派遣した。本報告書は、この調査団の活動を取りまとめたものである。

最後に、本調査に御協力いただいた外務省、警察庁、運輸省及び在中国日本大使館その他関係機関の方々に対し、感謝すると共に今後の協力をお願いする次第である。

平成4年（1992年）9月

国際協力事業団

社会開発協力部

部長 中 村 信







太田団長以下5人の調査団員



供与機材引き渡し式



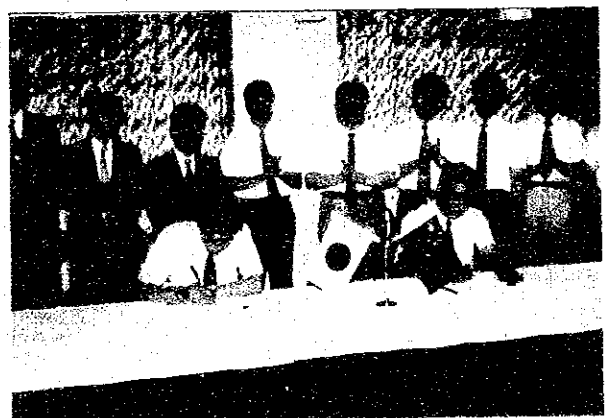
昨年度供与機材の車検設備視察



日中双方代表团



合同委員会協議



協議覚書署名



# 目 次

序 文  
写 真  
目 次

1. 巡回指導調査団の派遣 .....	1
1-1 調査団派遣の経緯と目的 .....	1
1-2 調査団の構成 .....	2
1-3 調査日程表 .....	3
1-4 主要面談者 .....	4
2. プロジェクト活動状況 .....	6
2-1 プロジェクトの進捗状況 .....	6
2-2 供与資機材の利用状況 .....	8
3. 調査団所見 .....	10
3-1 警察庁関連の懸案事項 .....	10
3-2 車両管理関係 .....	11
4. 合同委員会の協議事項 .....	12
4-1 参加者 .....	12
4-2 第三回日中合同委員会会議議事録 .....	13
I. 開会の挨拶 .....	13
II. 1991年度事業総括報告（A：中国側、B：日本側） .....	15
III. 1992年度事業計画報告（A：中国側、B：日本側） .....	22
IV. 協議・懇談（A：中国側からの要望、B：日本側からの要望） .....	26
V. 関係者挨拶 .....	30
VI. 閉会の挨拶 .....	33
5. 交通管制システム設備引き渡し .....	35
5-1 開催要領 .....	35
5-2 式次第 .....	36
5-3 中国側挨拶 .....	37

5-4 交通管制システム引き渡し品目録 .....	38
---------------------------	----

付属資料

① 技術協力に関する協議覚書 .....	45
② カウンターパート名簿 .....	57
③ プロジェクトに対する日本側からの投入実績 .....	58
1. 長期専門家の派遣 .....	58
2. 短期専門家の派遣 .....	58
3. 研修員の受け入れ .....	60

# 1. 巡回指導調査団の派遣

## 1-1 調査団派遣の経緯と目的

本件は「中国道路交通管理幹部訓練センタープロジェクト」と称し、「中華人民共和国公安部が中国の道路交通管理の近代化を図るため江蘇省無錫市に設置した中国道路交通管理幹部訓練センターにおいて、日本の道路交通管理技術を同センターの教育訓練を担当する教官である中国人カウンターパートに技術移転し、もって中国における道路交通管理技術の発展に資すること」を目的として、1988年11月10日に北京にて討議議事録(R/D)が締結された。

この案件に対して日本側からは、1991年度中までに調査団・調査員チームの派遣6回、長期専門家延べ6人、短期専門家延べ59人、供与機材625百万円、研修員受入12人に及ぶ協力を行ってきた。このたびプロジェクト期間の終了を来年度にひかえ、これまでの成果と進捗を見極めると共に、これからの最後の仕上げのためのプロジェクトの環境あるいは専門家派遣・機材供与・研修員受入について協議すべく、巡回指導調査団が派遣されることとなった。日中双方による協議の場は当初からR/Dに「合同委員会」と位置付けられており、1989年に第1回が行われ、今回で4回目を迎えるものである。

また今回の調査団派遣の時期に合わせて、最近据え付けの完了した供与機材の道路交通管制システムの贈呈式が行われることになったので、これに今回調査団が日本側代表として出席することも計画された。

## 1-2 調査団の構成

調査団は以下のように5人で構成された。

	氏 名 (担当分野)	所 属 及 び 職 名
団長	太田 利邦 (総括)	警察庁 長官官房審議官
団員	堀金 忠 (機材供与計画)	警察庁 交通局 交通規制課 課長補佐
団員	隈田 一郎 (研修計画)	警察庁 交通局 交通企画課 主任
団員	高橋 邦夫 (車両管理計画)	運輸省 自動車交通局 技術安全部 整備課 専門官
団員	阪本 日出雄 (協力計画)	国際協力事業団 社会開発協力部 計画課 ジュニア専門員

### 1-3 調査日程表

平成4年7月30日から8月8日まで下記の日程で調査と協議を行った。

日順	月日(曜日)	日 程
1	7月30日(木)	10:20 成田発 13:30 北京着(NH905) 15:30 JICA中国事務所(報告と打合せ)
2	7月31日(金)	11:00 日本大使館表敬訪問(松本公使、佐藤一等書記官) 14:00 国家科学技術委員会表敬訪問 15:30 公安部表敬訪問(於:公安部第一会議室)
3	8月1日(土)	北京交通情勢視察
4	8月2日(日)	08:00 北京発(CA921) 09:40 上海着 13:00 上海発(車) 17:00 無錫着
5	8月3日(月)	09:00 日程打合せ 派遣専門家に対する調査と指導 センター視察 13:30 交通管制システム設備引渡し式挙行
6	8月4日(火)	09:00~16:30 第3回合同委員会への出席(於:センター会議室)
7	8月5日(水)	杭州市道路事情視察
8	8月6日(木)	杭州市道路事情視察 18:30 協議覚書に署名 (日側調査団団長と中側調査団団長、於:無錫大飯店)
9	8月7日(金)	11:00 日本国上海総領事館表敬訪問(蓮見総領事、三宅領事) 14:00 上海市交通情勢視察
10	8月8日(土)	10:00 ホテル発 14:15 上海発(JL792) 18:00 成田着

## 1-4 主要面談者

### 1. JICA中国事務所

所長

三浦 敏一

次長

中村 俊男

所員

奥 邨 彰一

### 2. 在北京日本大使館

公使

齋藤 正樹

一等書記官

竹内 直人

### 3. 国家科学技術委員会

国際科技合作司 日本処処長

張 慧 春

国際科技合作司 日本処

葉 冬 柏

### 4. 中国公安部

交通管理局 局長

張 正 常

交通管理局 副局長

高 天 明

外事局

沈 志 農

### 5. 道路交通管理幹部訓練センター

主任

許 抗 勝

副主任

秦 麟

弁公室主任

管 国 忠

弁公室

張 興 根

プロジェクトチームリーダー

倍 憲 一

プロジェクト長期専門家

森 田 武

プロジェクト業務調整員

堀 内 洋



6. 無錫市公安局

局長	孫	榮 根
副局長	周	光 岳
交通警察支隊長	沈	成 林

7. 杭州市公安局

局長	烏	興 華
交通警察支隊長	鄭	明 甫

8. 在上海日本總領事館

總領事	蓮 見	義博
領事	三 宅	茂

## 2. プロジェクト活動状況

### 2-1 プロジェクトの進捗状況(前回調査団以降～今回調査団まで)

	内 容
1	第2回合同委員会の開催(1991.6.20～6.29)
2	<p>短期専門家による講義</p> <p>① 交通規制(1991.7.6～8.10)            道路交通法を中心にして、交通規制、道路許可、公安委員会、交通安全事業とその予算の流れ、交通管制センター、交通情報の意義、都市総合交通規制、駐車問題、保管場所法等の交通管理を行うための法的根拠とその手法について講義を行い、技術移転した。また、3交差点において実際に状況を観察して、その問題点と解決方策について検討した。</p> <p>② 高速道路交通管理(1991.11.2～12.7)            日本の高速道路の現状、高速道路交通警察の組織体制、交通事故と取締り、高速道路における事故再現、交通規制と安全施設の状況、事故発生時の早期回復方策等について講義を行い、技術移転した。また、高速道路上を走行する場合の運転の基本や事故回避動作を実際に車両に用いて実習した。</p> <p>③ 交通管制システム機材検収・工事打合せ(1992.2.13～2.28)            交通管制システムの機材の到着に伴って、各機材の検収を行うとともに、今後の設置工事に関する指導と打合せを行った。</p> <p>④ 車両管理(1992.3.14～3.24)            日本における自動車検査制度、自動車検査設備、検査機器の較正について講義し、小型車及び大型車の検査、検査機器の較正実習を行った。同時に、自動車及び二輪車の構造と原理についての講義を行い、その整備実習を行った。</p> <p>⑤ 交通管制システム(1992.2.29～4.4)            交通信号機の原理とその運用及び活用について講義し、交通管制システムについて日本と世界の動向、交通管制システムによる交通管理の在り方を講義した。また、交差点において、交通状況を調査し、信号機による交通流の制御について実習した。</p> <p>⑥ 交通管制システム据付(1992.4.23～7.9)            交通管制システムの各設備の据付け、調整、操作・運用、保守に関する指導を行った。この交通管制システムは、センターを無錫市の交通警察支隊南長隊庁舎に設置し、端末の信号機・交通情報板は実際の道路に設置するという実運用システムとなるものであるだけに、指導は各部門別にカウンターパートと交通警察支隊の技術者の二人をそれぞれ正・副責任者とし、専門家は指導に専念し、作業はすべて正・副責任者が行う方法で、可能な限りの技術移転を行うことに重点を置いた。</p>
3	<p>中国における主要都市交通調査(1991.10～1992.1)</p> <p>中国国内の代表的な都市において交通の実情を調査するとともに、問題点を認識、その対策等について考察するため、カウンターパート延べ20人を同行した。また、当訓練センターにおける各コースを開設するための講義材料の収集を行った。この調査及び収集を実施した際には、現場交通警察官と意見を交換し、交流を行うことができた。</p> <p>調査を実施した都市は、次の6都市である。</p> <p>(1) 太原 (4) 広州            (2) 昆明 (5) 深圳            (3) 成都 (6) 大連</p>

	内 容
4	<p>アンケート調査 (1992. 2~3)  今後の円滑な技術移転及び供与機材の効果的活用等を図るため、カウンターパート16名に対し、アンケート調査を実施した。初めての試みであり、プライバシーの侵害や思想調査等にならないように留意しながらの調査であったが、長期専門家として貴重な資料を得ることができた。</p>
5	<p>日本語教室の開催 (1991. 7~1992. 7)  カウンターパートの日本語の語学力の向上及び長期専門家との間のコミュニケーションを図るため、主として夜間に日本語教室を開催した。そして、簡単な試験も実施して語学力の向上を図った。</p>
6	<p>無錫市要人との懇談  1991年6月、無錫市市長(副市長対応)及び無錫市国家技術委員長と懇談面会し、当プロジェクトに関する説明を行い、運営上の支援と協力を要請した。</p>
7	<p>無錫市交通警察支隊との交流  無錫市交通警察支隊は、交通管制システムの操作運用を担当することもあって、早い時期から交流を行ってきた。まず、最初は交通問題について意見交換を行い、ついで当プロジェクトに対する協力を依頼した。このため、交通管制システムの整備に対して最大の協力を得ることができ、整備工事は何の支障もなく実施することができた。</p>
8	<p>供与機材及び専門家購送機材に関する技術移転</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 自動車検査設備  1991年6月に引き渡しを行った自動車検査設備について、4人の特定のカウンターパートに対し、4回の講義と実技をもって操作・運用訓練を実施した。また、カウンターパート同士でも操作・運用訓練を行った。</li> <li>(2) 交通管制システム設備  交通管制システムの整備に際し、その事前準備段階における各設備の設置方法、使用材料、設置工程、設置要領に関する技術会議を開催した。</li> <li>(3) 模擬信号機  4種類の交通信号制御機を利用した模擬信号機の取扱い講習会を実施した。</li> <li>(4) プリント基板の取扱い方法  プリント板に関して、はんだごての扱い方からプリント基板上に電子回路を組み込む製作実習を4回、延べ8名のカウンターパートに行い、家電機器の簡単な修理方法を講習した。</li> <li>(5) 複写機  複写機の供与に際して、その操作ミスや点検ミスをなくすために複写機の原理及び日常の保守点検について講習した。</li> <li>(6) 自動二輪車  自動二輪車の供与が決定していることに伴い、専門家の保有する自動二輪車を用いて、点検方法、分解方法、簡単な修理方法、危険な乗り方等について、講習会を開催した。</li> </ol>

2-2 供与資機材の利用状況

	資 機 材 名	活 用 状 況
供 与 機 材	交通管制システム 中央装置 1 式 交通信号機 8 基 監視用テレビ 3 基 交通情報板 2 基 投影表示装置 1 式 空調機等付帯設備 1 式	1992年8月3日、中国側に引き渡しを行った。現在、交通管制センターは、無錫市交通警察支隊南長隊舎4階に、交通信号機は一般道路に設置して、実用に供している。担当のカウンターパートは、交通管制センターを「実習基地」として運用し、調査研究を行っている。
	調査実習用車両 バス(40人乗り) 1 台 ボンゴ型(8人乗り) 1 台 ステーションワゴン(7人乗り) 1 台 トラック(バケット) 1 台 オートバイ(730cc 650cc) 2 台	カウンターパート、専門家の調査業務、車検業務、一般業務等に使用している。特に、トラック(バケット)は、交通管制システムの整備工事や信号灯器の調整・修理に威力を発揮している。 また、短期専門家の調査業務や送迎にも活用しており、カウンターパートの安全運転技能の向上にも役立っている。
	全自動自動車検査設備 システムコントローラ 1 式 データエントリーターミナル 1 式 ブレーキテスト 1 式 速度計試験機 1 式 CO-HC試験機 1 式 黒煙測定器 1 式 データ処理装置 1 式 分電盤等付帯設備 1 式	1991年6月24日、中国側に引き渡しを行った。それ以後は、 第1期(91.7~92.6) 取扱・操作訓練 第2期(92.7~93.6) 保守点検訓練 第3期(93.7~94.11) 運用訓練 の3期に分けて、それぞれ実施している。 現在は、担当カウンターパート1名を中心に、毎週点検を実施し、この時他の3名のカウンターパートとともに取扱・操作訓練及び保守点検訓練を行っている。今年中に、「車検検査技術者専門コース」を開設する計画である。
	中国語ワープロ 4 台	カウンターパートの調査研究報告書、講義資料作成、その他日中双方の業務用として使用している。
視聴賞機材 16mm映写機 テープレコーダー ビデオセット スライド作成機器 実物投影器	長期・短期専門家の講義用、カウンターパート同士の研修用・広報用に、また、講義資料作成用として活用している。	
指導取締用機材 レーダースピードメーター 1 式 アルコール検知器 15 式 自動重量測定装置 1 式 騒音計 1 式 検問用機材 1 式	交通指導取締り実習用機材及びカウンターパート自身の調査・研究用として活用している。	

	資 機 材 名	活 用 状 況	
供 与 機 材	交通調査用機材 自動車走行測定装置 携帯用路面滑り計 加速度計 振動計 調査用ビデオセット カメラセット トランシーバー 発動発電機 ストップウォッチ	1式 1式 1式 1式 1式 3式 2式 2式 10台	交通状況の調査、交通事故処理、交通取締りの現場等における調査実習用、講義資料の確認用として使用している。
	適性試験器 視覚検査装置 電動式深視力計 動体視力検査装置 視野計 速度見越し反応 重複作業反応検査器 処理判断検査器 夜間視力検査器	1式 1式 1式 1式 1式 1式 1式 1式	運転者の管理及び免許業務において運転適性の理論と実際を確認し、今後の講義を行う上で必要とする事項をカウンターパート自らが実習用として使用している。
	ドライビングトレーナー	1式	運転者の技能向上と傾向のチェックをカウンターパート同士が教官と生徒になり、相互教養を行っている。
	教材作成機器 パソコン ワープロ（日本語） 電動タイプライター 印刷機 製本機 オーバーヘッドプロジェクター 卓上電子計算機	5式 1式 1式 2台 1台 2台 2台	講義用の資料、調査研究報告書、広報資料及び業務用書類の作成に使用している。
	交通関係図書	1式	講義、調査研究の参考書として使用している。
購 送 機 材	複写機	2台	講義用の資料、調査研究報告書、広報資料及び業務用書類の作成に使用している。
	日本語ワープロ	2台	
	パソコン	1台	講義用の資料、調査研究報告書の作成、特に、統計処理を必要とするもの及び表示を要する資料に使用している。
	交通関係図書・ビデオ		講義、調査研究の参考書として使用している。

### 3. 調査団所見

#### 3-1 警察庁関連の懸案事項

中国道路交通管理幹部訓練センタープロジェクトの協力期間も残すところ、約1年3ヵ月となった。本プロジェクトは、中国国内情勢等の影響を受けて、プロジェクト開始直後から大幅な遅れが出て、その先行きが危ぶまれたところであったが、日中双方の関係者の努力により、本プロジェクトの運営は軌道に乗り、前記「プロジェクトの進捗状況」のように暫定実施計画は順調に推移しているところである。

また、討議議事録によって合意された供与資機材についても、1991年度をもってすべて完了し、更に、平成3年6月の巡回指導調査団派遣時の合同委員会において要求された道路標示用設備（熱式ラインマーカー）、警察庁方式CRT運転適性検査器、教育実習用信号機等についても、現在供与の方向で進行しているところである。

このように、1988年11月10日に署名された討議議事録によって合意された基本計画については順調に推移しているところであるが、附表1-1の基本計画にある3つの教育・訓練コース（6ヵ月制交通管理指導幹部訓練コース、専門技術者訓練コース、6ヵ月制学校教師養成コース）に関しては、未だ実施されていない状況にある。

本件については、昨年の巡回指導調査団訪中の際の合同委員会の席上でも日本側から提議したものであるが、その後もコースは開設されておらず、中国側の取組みにやや時間のかかっている分野である。中国公安部交通管理局副局長・高天明氏が第3回日中合同委員会における閉会の挨拶の中で分析しているように、その原因は、「カウンターパートが日本の専門家から得た知識・技術を中国の実状にどう応用していくかの方向性を見出せない。」ことにある。

中国語教科書の作成、教材ビデオの中国語吹き替え等、教育・訓練コース開設に向けた環境は整いつつあるものの、現段階では、附表1-1の基本計画にある3つの教育・訓練コースの開設はやや無理があると認められることから、今回の合同委員会においては、別添「協議覚書」のとおり、日本側から「三分野の訓練コースにとらわれない現実的なコースの開設」を含めて再度開設を要請したところ、中国側からは今年下半期を目標に交通警察幹部の専門技術者訓練コースを開催する旨の回答が得られた。具体的な案としては、

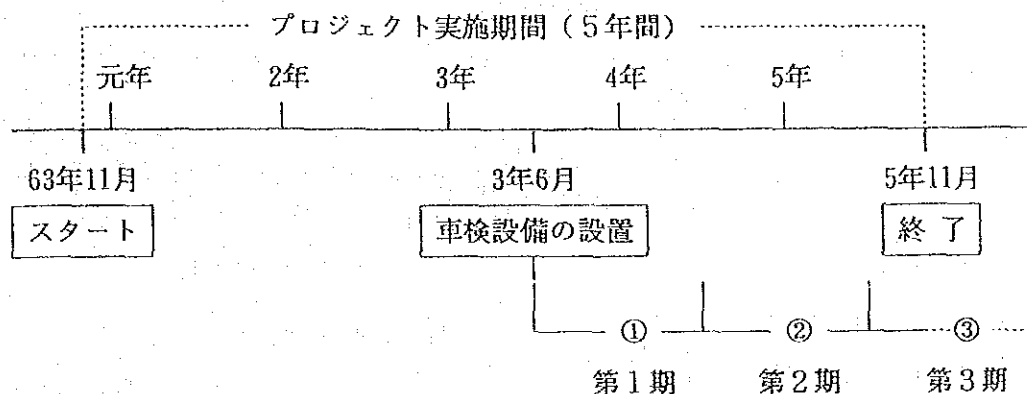
	コース名	実施時期及び期間	対象者
1	車両検査	10月中旬、7日間	初級専門技術幹部10名
2	交通管制システム	11月上旬、7日間	初級幹部10名
3	高速道路交通警察	2月下旬、7日間	初級幹部10名

以上の3コースが計画されている。

今後は、今回の調査団によって提案された6項目からなるカウンターパート実力アップの方法を実践しながら、序々に専門技術者訓練コースを発展させていき、附表1-1の基本計画にある3つの教育・訓練コースが早期に開設できるよう協力していきたい。

## 3-2 車両管理関係

### プロジェクトの進捗状況



☆ 車両管理関係については、平成元年4月に車検設備機材供与の仕様決定に係る調査設計、平成3年3月には車両管理関係の講義のため、短期専門家を派遣し技術移転をおこなったところであるが、平成3年6月に車検設備が設置されたので、これの有効活用を図るべく中国側が①～③の3段階に分けた訓練実施計画を次のとおり作成し実施している。

① 第1期 機器の取扱い及び操作訓練等

- ・ 機器メーカーの担当者による据付け、調整、操作等 ----- 実施済
- ・ 車両管理専門家による機器の操作、車両の検査方法等 ----- 実施済

② 第2期 機器の保守点検及び車両の検査方法等

- ・ 「自動車検査場管理規則」の制定 ----- 実施済
- ・ 機器メーカーの担当者による機器の保守点検等 ----- 計 画
- ・ 検査技術担当者による車両の検査方法等 ----- 計 画

③ 第3期 車検設備を使用した実際の車両検査の運用訓練等

- ・ 車両の検査の実施 ----- 計 画

### 問題と対策

カウンターパートによる検査機器の操作及び車両の検査は、支障なく円滑に実施されており、また、検査機器の保守管理状況も良好であった。しかし、訓練は計画を見ても頻繁には実施されていないのが実態である。

したがって、今後は、検査施設を有効に活用する方法を検討してこれを実行すると共に、作成された「自動車検査場管理規則」に基づいて適切な保守管理を行い、所期の目的を達成するよう努めることが肝要である。

## 4. 合同委員会の協議事項

### 4-1. 参加者

日 本 側		中 国 側	
JICA巡回指導調査団団長 警察庁長官官房審議官 (協議覚書署名者)	太田利邦	日中合同委員会委員長代理 公安部交通管理局副局長 (協議覚書署名者)	高天明
JICA巡回指導調査団団員 警察庁交通規制課課長補佐	堀金忠	国家科学委員会国際合作司日本処	叶冬柏
JICA巡回指導調査団団員 警察庁交通局交通企画課主任	隈田一郎	公安部交通管理局科学技術処 処長	張殿平
JICA巡回指導調査団団員 運輸省自動車交通局技術 安全部整備課専門官	高橋邦夫	公安部交通管理局宣教処	沈志農
JICA巡回指導調査団団員 JICA社会開発協力部 ジュニア専門員	阪本日出雄	公安部交通管理局科学技術処	金躍
JICA中国事務所	奥邨彰一	無錫市公安交通警察支隊長	沈成林
長期専門家(チーム・リーダー) (討議議事録署名者)	倍憲一	中国道路交通管理幹部訓練センター 主任(討議議事録署名者)	許抗勝
長期専門家(交通管理)	森田武	中国道路交通管理幹部訓練センター 弁公室主任	管国忠
長期専門家(業務調整)	堀内洋	中国道路交通管理幹部訓練センター C/P代表	金同明
通訳	張興根	通訳	金躍(兼)



## 4-2 第三回日中合同委員会会議議事録

この議事録は、日中双方が署名の上で保有することとされた物なので、挨拶にいたるまで省略することなく、全文をここに掲載する。(署名部分は34ページ)

### 第三回日中合同委員会会議議事録

開催月日：1992年8月4日～5日  
場所：中国道路交通管理幹部訓練センター  
出席者：中国側 高天明 許抗勝等 計9名  
日本側 倍憲一 太田利邦等 計10名

議 題

#### I 開会の挨拶

中側：高天明（委員長代理）

ご来席の皆様：

中日の技術協力である中国道路交通管理幹部訓練センタープロジェクトの第三回合同委員会が、本日から開催されるに当たり、本プロジェクト合同委員会委員長・公安部交通管理局局長に代り、開会に辞を申し上げます。同時に、委員長に代わり、今回の合同委員会に参加するためわざわざご来訪の太田利邦先生を団長とするJICA巡回指導調査団に対し熱烈な歓迎の意を表すると共に、長期にわたり私達に協力し交通管理のプロジェクトの発展のため苦勞を厭わず日夜頑張っておられる駐訓練センターの日本の長期専門家、積極的に本プロジェクトの実施を支援して頂いた日本警察庁、運輸省、JICAに対し感謝の意を表します。また、本プロジェクトの発展は、中側の各指導機関及び地方政府の支持があったからこそであり、ここに、国家科学委員会、無錫市公安局等の皆様に心から感謝の意を表します。

本プロジェクトは、1988年11月10日R/Dに署名し正式に実施された協力期間5年間のプロジェクトであります。今は、期間的にも任務上からも既に半分を過ぎており、収穫の季節に入ったところであります。日本の専門家が訪中され講義なされるのも残り僅かとなり、R/Dに基づき日本側から供与された機材は、基本的にはサイトに到着して据付られております。C/Pは、日本の長期・短期専門家の指導と援助のおかげで業務上大きく成長しており、計画的に順序だてて交通管理第一線の交通警察幹部に対し業務訓練を始めており、交通管理の第一線に役立っております。

ここ数か月間、「鄧小平同志の南方巡回における談話」が全国規模で徹底、具体化されるに伴い、各地で経済建設の気運が高まっている。経済発展に伴う道路交通管理に対する新たな要求に対応するため、経済発展により大きな貢献をするため、更に一步、多くの交通警察幹部の近代的交通管理意識と知識を深めることが非常に必要である。従って、社会情勢も訓練センターが今までにもまして早い成長をとげ、早く成果を出し、多くの成果を収めることを求めているのであります。

私は、訓練センターが成果を出す肝要な時期に、私達がここで合同委員会を開くことは、誠に時宜にかなっており、意義のあることと思います。今回の委員会は、必ず訓練センターの今後の事業の大きな推進力となり、訓練センターの具体的作業をより順調に進めさせ、我が国の交通管理事業に貢献出来るものと思います。

今回の合同委員会が成功裡に終ることを祈ります。

ありがとうございました。

日側：太田利邦（調査団長）

調査団を代表いたしまして、私から一言ご挨拶申し上げます。

まず、今回の調査団訪中に際して、公安部道路交通管理局や当センターの皆様方の熱烈な歓迎に対し、深く感謝の意を表わします。

さて、1988年11月10日に日中双方の代表者がR/Dに署名し、本プロジェクトが開始されましたが、早いもので技術協力期間も残すところ約1年となりました。

この間、長期専門家のほか短期専門家派遣及びカウンターパートの日本国受入れ等、R/Dで確認されました暫定実施計画につきましては、順調に推移しており、本プロジェクトの成果は着々と上がってきております。

また、訓練センター関係の施設も着実に整備されてきており、日本側の供与機材についても、昨年は自動車検査設備を、また、昨日は交通管制システムの引渡しを完了し、本プロジェクトのメイン機材導入はほぼ終了いたしました。

更に、昨年、合同委員会で検討された道路標示用設備等の機材につきましても、供与の方向で現在進行しているところであります。

日本におきましても、都市における交通渋滞を解消し、交通の安全と円滑を図ることは交通警察にとって重要課題となっており、昨年、第5次交通安全施設等整備事業計画を進める中であって、交通管制システムの整備・拡充は推進項目の一つとなっております。

今回、引渡しを完了しました交通管制システムは、大量・過密化し複雑化する都市の交通を安全かつ効率的にコントロールし、都市交通機能を確保するために必要不可欠なものであり、くるま社会の進展に伴いその重要性はますます高まることと確信しております。

残り少なくなった技術協力期間をより有意義で充実したものとするため、共通の最終目的である本プロジェクトの成功を目指し、本会議ではお互い相手の立場を尊重し、検討、話し合いを進めて実り多い会議としたいと考えております。

最後に、本会議及び及び本プロジェクトが成功裡に終ること、そして、ご出席の皆様方のご健康を祈念し、私の挨拶に代えさせていただきます。

## II 1991年度事業総括報告

### A 中側：許抗勝（センター主任）

中国道路交通管理幹部訓練センターは、我が国の公安部交通管理局と日本国際協力事業団（JICA）が1988年11月10日にR/Dを締結した技術協力プロジェクトであります。今年には既に四年目に入っており、計画はずっと順調に実施されている。昨年の第二回合同委員会以来、中日双方の共同の努力の下にプロジェクトは、また新たな進展を見ることができた。C/Pの訓練・教育用機材の装備、教育・教務および内部管理制度の制定・整備等の各事業は、R/Dに基づいて順調に展開されている。私はここで、過去一年間の実施状況、若干の初歩的な体験および私たちの仕事に欠けているところや問題点について以下の通り報告します。

#### 一、本プロジェクトの過去一年間の実施状況

##### 1. 日側の短期専門家派遣

前回の合同委員会以来、日側は高速道路交通管理、交通規制、交通管制、車両検査、交通管制システム調査及び据付・操作指導等6回延31名の短期専門家を派遣し、講義或は指導を行なった。これらの専門家は、管理策定部門の官吏、経験豊かな第一線の交通管理幹部、科学研究者、信号機と交通管制システムの生産工場の技術者及び技術研究会の専門家であった。

講義の内容は、科学的であり、かつ理論的にも一定の深さ、広さがあり、中側のC/Pとその他の研修生は、上述分野における日本の交通管理専門知識と先進的な経験を系統的に学ぶことができた。わが訓練センターのC/Pチームの成長を速め、彼らの専門理論、学術水準の向上に積極的な役割を果たした。

また、長期・短期専門家たちの学術面における謹厳な気風、真剣かつ緻密な仕事ぶりから、C/Pと職員は大いに教訓を得ている。

##### 2. C/Pの訪日研修

91年8月6日から、第3次4名のC/P訪日研修団が、それぞれ72日間（馬慶）、36日間（張仲仁、傅姣、陳杲）訪日研修を実施した。日本滞在中、彼らは日側から親切なおもてなしとお世話をいただいた。聴講、実際の操作、現場見学、実地調査学習等を通じ、日本の交通管理面の先進的経験と技術に対する理解を一層深め、視野を広げ、知識を増やすことができた。

##### 3. C/Pの国内実習、調査研究状況

C/Pが我が国の交通実情を系統的、全面的によりよく理解するため、更に、日本の交通管理に関する経験や技術を正確に消化、吸収するため、ここ一年間、日本の長期専門家とC/Pから成る六つの視察チームを編成し、それぞれ成都、昆明、大連、太原、広州、深圳の交通実情及び特徴について視察を行なった。急遽解決が必要な問題、また視察結果によって報告書を作成した。

特に91年末、92年無錫市の8つの交差点に据付予定の交通管制システムのため、訓練センターのC/Pと長期専門家は、特別チームを作り、広東省広州市、深圳市に赴き、全面的、系統的に且つ真剣に調査を行なった。交通管理の調査の重点は、深圳市の交通管制システムであった。深圳市の公安交通管理局のこのシステムの担当技術者から、システムの導入、据付、運用、維持管理、評価等について、全面的、具体的紹介があった。深圳の交通管制システムは、私たちの訓練センターの交通管制システムと同じメーカーが製造したものであったので、この調査は、私たちの交通管制システムの据付、調整、火入れ等に大いに参考になり、効果的であった。

#### 4. C/P日本語等基本技能の養成状況

日本の交通管理における先進的な技術と経験を吸収・消化する能力を強化し学習過程における言葉の障害を減らすため、91年1月から毎週4回（各半日）、訓練センターは、特に江南大学から日本語教師を招きC/Pに対し日本語の授業を行なった。これをベースとして訓練センターは、更に日本語教育用ビデオを購入し、C/Pの日本語レベルの向上を図った。また、長期専門家が定期的に日本語実力試験を行なっている。この期間の学習でC/Pの日本語レベルはおしなべて向上した。これは、C/Pと専門家間の交流及び協力プロジェクトの順調な展開に大いに寄与するところがあった。

また、C/Pが実際教壇に立つとき必要なので、彼等にみずから交通事情を体験させるよう、引き続きC/Pに自動車運転教習を行なっている。今日現在までに、訓練センターで運転免許又は実習運転免許を取得した者が14名います。

#### 5. 日本の交通管理の技術と経験に対するC/Pの吸収、消化及び応用状況

日本の交通管理の技術と経験を学習、吸収し、我が国の交通管理事業に役立てることは、当プロジェクトの主要な目標、任務であり、また、私たちの訓練センターにおける仕事の指導指針でもある。この目標と任務をよりよく達成するため、私たちは上述したように、C/Pを交通管理の第一線へ視察、実習に派遣するだけでなく、彼らが実際と結び付けて応用する条件も作っている。例えば、中国自動車工学学会、中国人間工学学会、交通工学学会、土木工学学会、科学技術情報学会、機械工事学会等専門家会議及び学術会議に延18人のC/Pを派遣しました。彼らは多くの調査研究レポートや科学技術論文を発表しました。C/Pがこれらの科学研究学会に参加したことにより、最新の科学技術と接触することができた。これは、高レベルの教材を作成するのに大いに役立った。また、C/Pは、実状に合った講義の準備を真剣に行い、独自で講義を始め、交通警察幹部訓練コースを開いた。いろいろな場合いろいろな形式で専門テーマ講座を開いたり学術交流活動を行った。

#### 6. 日側から提供された資料の翻訳と整理状況

今日現在まで、訓練センターでは短期専門家の講義資料25種類140万字を翻訳、印刷した。「運転者対策」、「交通規制」、「交通信号」、「交通管制」、「交通安全教育」等計100万字の本格的なテキストを翻訳、印刷した。また、日側から提供された授業用ビデオソフト40部計33時間を翻訳し、その内27部の吹き替えを完了した。

上述の資料は、日本の交通管理技術の普及、訓練センターの知名度向上などの面で比較的よい役割を果たした。私たちは、これらの教材、資料が大きな効果を発揮できるようにします。

#### 7. 日側援助機材の受入状況

プロジェクトのR/Dにより、日側は訓練センターに対し11大品目の機材を供与することになっている。

今日現在までに訓練センターに到着した機材は、交通管制システム、自動車安全検査設備、交通信号模擬設備、交通調査用車両、オートバイ、ビデオ・ビデオカメラ類、印刷機、アルコール感知器、ドライビングトレーナー、適性試験機器、レーザー速度計等27種類計132セット（件）であります。日本に専門家が携行機材として提供した機材は、交通調査用機材、指導取り締まり用機材等の100種類余り計408台（件）であります。計算機、ワープロ、トランシーバー等は、我が国で購入した機材で、40種類余り98台（件）あります。日本語図書は440冊、中国語図書は677冊、教材用ビデオは79部あります。これらの機材は、訓練センターの教学の中で重要な役割を果たすものと私たちは確信しております。

## 8. 交通管制システムの据付、調整状況

交通管制システムは、本プロジェクトの中で、日側が供与した最大の設備で、三億八千六百万日本円である。据付、調整作業がスムーズに行なわれるよう、またこのシステムがよりよい教材となり、社会に貢献できるよう、中方では無錫市計画委員会、建設委員会、無錫市公安局、交通警察支隊等関係業務部門が参加した「工事調整チーム」を作った。無錫市副市長の華煥林氏が自らチームリーダーとなり、工事全体の立案、指揮に当たった。

交通管制システムの据付工事に間に合うよう、無錫市交通警察支隊は関係会社と協力して、管制区域の交通計画の立案、交通安全施設の設置、交通安全教育管理等事前工事及び450平方メートルの交通管制センター室を完成させた。すべての工事関係者が、日本の専門家と共に、策を練り、知恵を出し合って交通管制システムの据付、調整、校正作業を完成させた。中方が交通管制センター室に投入した資金は、100万元人民元、設備据付、交差点、道路等に投入した資金は、400万元人民元である。

ここで特に強調しておきたいことは、この三か月の交通管制システム据付工事期間中、長短期専門家が、この交通管制システムの据付工事に大変な心血を注いだということです。田辺多知夫氏をはじめとする京三の専門家の皆さんは、仕事に真剣且つ緻密であり、苦勞を厭わず、自ら現場に赴き、工事に対して厳格であった。長期専門家の伊藤先生は、プロジェクトのため任期を延長しました。据付前の準備から実際の据付まで、彼は、現場に付きっきりで自分の体を動かし、工事を指揮した。この工事で、専門家たちは、このプロジェクトに対する大きな努力と愛着を体で示し、C/Pによい手本を見せ、プロジェクトの発展のため大きな貢献をしました。

9. 今日現在までに、本プロジェクトの主な機材は、供給を完了しております。訓練センターでは、いつも機材の輸送、使用、保管に十分注意を払っています。いつも設備の安全輸送、正確な据付に心掛けているばかりでなく、適時、多くのその機器に対応する操作、維持管理訓練を行なっている。また、多くのこれらの機器に相応する具体的な管理制度や方法を制定し、これらの機材の長期的、有効的、運行によい条件を作り出した。

## 二. この一年間の本プロジェクトにおける体験

上述の状況から分かりますとおり、訓練センターのここ一年間の発展は順調であった。交通管制システムの据付だけでなく、C/Pの訓練、教学用機材等も、既に計画・案の段階から実質的な段階に移った。特に今年の上半期は、訓練センターで、多くの機材受入、大小さまざまな機器の受入れ手続き、交通管制システムの据付、操作、訓練、大量の短期専門家の受入れ、日本側専門家チームの調整員及び交通管理専門家の交替、C/Pの教材の編集、講座開設準備等の仕事に直面した。この仕事量の多さ、難しさは、いまだかつて体験したことがないものであった。しかし、日中双方の共同の努力の下に、訓練センタープロジェクトの進展は順調であり、顕著な成果を得ている。この結果を得たのは、私たちが次に述べるいくつかの体験をしたからである。

1. ここ一年間は、訓練センタープロジェクトで受入設備が最も多く、仕事の質が比較的重い一年であった。この期間中に訓練センターの主任と日方の二名の長期専門家の通常の人事交替があった。各人の経験上の違いや仕事のやり方に差異があるので、双方は仕事の面で早急に慣れることが必要であった。中方は、プロジェクトの発展的継続を考慮し、プロジェクトの今後の一層の発展のため、再三にわたり、引き続き相互尊重、相互信頼、相互支持、相互理解の友好協力の原則に従い、すでに定着している仕事の決まり、やり方を堅持するよう強調した。倍りリーダーをはじめとする日本の長期専門家チームも自信満々で、協力した。ここ一年余り双方は、引き続き「毎週の定例会議」「事務連絡票」及び異なるレベルで何回でも意見交換するという方法で、センターの業務の継続的な順調な発展を支えてきた。時宜を得た意見交換、相互友好協議、状況の適時通報の前提の下に、センター主任と専門家チームリーダー、専門家とC/Pとの間に、新

しい、より多くの理解と支持が生まれた。

2. 以前の数年間の技術移転は、C/Pが主に専門家の講義の内容に従って学習する形であった。しかし、日本の交通環境と中国の実際の状況とは比較的大きな差異がある。学び取った知識を必ずわが国の交通管理の実際の状況にあうようにしなければならない。そこではじめて、使用に耐える教材ができるのである。このような受動的な学習の局面を変えるため、私たちは、C/Pを各地に派遣し交通視察をさせると共に、私たちが知りたい知識をリストアップして事前にセンターに来て講義する専門家に提示し、専門家が目的を絞った講義をするようにし、比較的良好な効果を上げることができた。また、管制センターの据付、調整の際、C/Pは積極的に無錫の交通管理の特長を紹介し、システムのある部分が無錫の交通実状に合わないということについて専門家と率直な意見交換を行い、専門家と共に突っ込んで考えたので、システムの機能使用レベルを上げることができた。また、C/Pも自ら実践する能力の育成を重視し、システム据付期間中、真剣に、謙虚に専門家からいろいろな実際の操作を学び取り、管制センターの各装置の取り付け、調整、故障の分析、パラメーターの調整等を把握した。これは、システムの今後の維持管理、保守、増設のために一定の基礎ができたことになる。

3. ここ数年来、私たちと日本の長期専門家は、共に仕事をし、生活する中で、深い友情で結ばれた。専門家の皆さんは、日本から無錫にいらっしゃたのですから、生活や娯楽の面で比較的大きな違いがあった。専門家の皆さんが、センターで楽しく生活できるように、私たちは、適時専門家と中側の人たちの合同娯楽活動を企画した。共に出演、共に歌い、共に踊り、共に湖畔で魚釣りをし、共に観光にでかけた。専門家の皆さんも中側の人たちとの交流を大切にしていた。例えば、余暇の時間、C/Pと日本語会話の勉強をしたり、オートバイの運転技術や修理技術を伝授したりした。C/Pの趣味を聞き出し、C/Pと膝を交えて話し合い、互いに励ましあい、仕事や生活面での気持ちのいい環境を作り上げ、訓練センターの活力をふやした。

4. ここ一年余り、私たちはプロジェクト実施の過程において、運営方針から若干の具体的な困難・問題解決に至るまで、引き続き一貫して国家科学技術委員会、公安部、江蘇省、無錫市政府及び関係各部門から時宜を得た指示と力強い支持を得てきた。私たちのプロジェクトの対外接待任務は非常に重く、この一年間だけでも、訓練センターに来られた外国の賓客は12回延44人あり、それに加えて通関する教育用機材の外事関係手続きもかなり煩雑であったが、上述の関係部門から大いに支持され、手続きはいつも極めて順調に運んだ。一部の比較的重要な対外活動に対しても、各級指導者は大きな関心を寄せた。短期専門家は、センターに来られた際、ほとんどが北京、上海、蘇州、無錫等の都市へ交通視察に行くが、地元の公安局、交通警察支隊の責任者は毎回丁寧に接待してくれました。昨年、長期専門家とC/Pが広州、深圳、昆明、大連、成都、太原等の都市に行き交通調査を行なった際も、地元の交通警察部門から丁寧な接待を受けた。私たちは、この場をお借りして各級の指導者に対し、心からお礼申し上げます。

### 三. 解決しなければならない幾つかの問題

1. 訓練センターの協力期間は、あと15か月で満期になる。訓練センターの発展に伴い、現在、訓練センターの管理運用機構をもう一層改善し完全なものにしなければならない。必要な人員の増加、必要な管理幹部の配置は十分重視されるべき問題である。また、訓練センターに僅か一名の通訳しかいないという状況もプロジェクト発展に対応できない。通訳の一名増員も当面の急務である。現在、私たちは既に数名の候補者を物色しているが、訓練センターに移籍するにはまだ時間がかかる。

2. この三年間で、訓練センターの業務環境は比較的大きく改善された。機器設備は増加

し、人員も補強され、各方面の条件は、だんだん完全なものとなっている。現在、訓練センターのC/Pを出来るかぎりはやく成長させ、出来るだけはやく教壇に立たせるだけでなく、ここ数年間各長、短期専門家から学んだ専門技術知識や理論基礎知識をもう一層全面的に、系統的に消化・吸収し、中国の実状に合わせて、中国の国状に見合った教材を編集し、交通管理関係部門の管理幹部と技術者に伝授しなければならない。

私は、これらの問題は、公安部指導者の関心と関係部門の大いなる支持のもと、訓練センターの中日双方の全職員の努力により、必ずや解決を得ることができると信じている。新しい一年に、訓練プロジェクトは、きっとより素晴らしく、よりはやく、より順調に前進発展するでしょう。

皆さん、ありがとうございました。

## B 日側：倍憲一（チーム・リーダー）

プロジェクト運営の「習熟期」と位置づけた1991（平成3）年度は、予定の実施計画の100%を達成。初年度・2年度・3年度のトータルで、機材供与は全体の93%、長期専門家派遣は68%、短期専門家派遣は49%、カウンターパート訪日研修は75%をそれぞれ消化することができました。これもひとえに、当訓練センターを始め、日中両国政府及び関係者の皆様並びに国際協力事業団、日本国大使館、日本国駐上海総領事館の皆様方の温かいご指導ご協力によるものと、まずもって、心からお礼を申し上げます。それでは、順を追ってご報告申し上げます。

### 1. 長期専門家関係

先に、任期を終えて帰国いたしました高橋公一郎調整員及び伊藤俊之交通管理長期専門家は、健康に恵まれ、無錫の自然環境と、行き届いた訓練センター側の公私にわたるご配慮及びご努力を得て、専心、業務の推進に当たることができ、日中友好の実をあげてきたところであります。ちなみに、両名の後任は、堀内洋調整員及び森田武専門家で、すでに引き継ぎを完了、業務に専念いたしているところであります。

### 2. 短期専門家関係

#### (1) 交通管制システム詳細設計指導専門家の派遣

4/6～4/13の8日間、交通管制システム詳細設計指導短期専門家1名が派遣され、関係者に対し、交通管制システム詳細設計の指導を行いました。

#### (2) 車検設備据付・操作指導専門家の派遣

5/9～6/11の34日間、車検設備据付・操作指導短期専門家2名が派遣され、関係者に対し、車検設備据付・操作の指導を行いました。

#### (3) 交通規制専門家の派遣

7/6～7/25の20日間、交通規制短期専門家5名が派遣され、C/P14名に対し、技術移転のための講義を行いました。

#### (4) 高速道路交通管理専門家の派遣

11/2～12/7の36日間、高速道路交通管理短期専門家5名が派遣され、C/P14名に対し、技術移転のための講義を行いました。

#### (5) 交通管制システム機材検収・工事打合せ専門家の派遣

1992（平成4）年2/13～2/28の16日間、交通管制システム機材検収・工事打合せ短期専門家2名が派遣され、交通管制システム機材の検収・工事打合せを行いました。

#### (6) 車両管理専門家の派遣

1992（平成4）年3/14～3/24の11日間、車両管理短期専門家1名が派遣され、C/P15名に対し、技術移転のための講義を行いました。

#### (7) 交通管制専門家の派遣

1992（平成4）年2/29～4/4の36日間、交通管制短期専門家5名が派遣され、C/P15名に対し、技術移転のための講義を行いました。

### 3. C/P関係

(1) 前年の平成2年度末（1991年3月）におけるC/Pは、15名でありましたが、年度内に1名が補充され、計16名となり、技術移転のための講習を受けました。

#### (2) 訪日研修

9/3～10/8の35日間（1名は8/6～10/8の64日間）、C/P4名が訪日。日本での研修を受け、多くの収穫を得て、帰国いたしました。

【馬 慶、張 仲仁、陳 果、傅 姣】



#### 4. 供与機材関係

期間中に供与された機材は、次のとおりであります。

- (1) 交通管制システム一式  
当プロジェクトの最大機材で、現地引渡しを終了いたしました。
- (2) 教材作成機器  
現地引渡しを終了いたしました。
- (3) 視聴覚機材  
現地引渡しを終了いたしました。
- (4) 指導取締り用機材  
現地引渡しを終了いたしました。
- (5) 調査実習用車両5台  
(マイクロバス、ライトバン、バケット車各1台、オートバイ2台)  
現地引渡しを終了いたしました。
- (6) 交通調査用機材  
現地引渡しを終了いたしました。
- (7) 適性試験機器  
現地引渡しを終了いたしました。
- (8) ドライビングトレーナー  
現地引渡しを終了いたしました。
- (9) 交通関係図書・ビデオ  
現地引渡しを終了いたしました。

#### 5. 教材関係

- (1) 『交通管理』『交通安全教育』『交通指導』『交通工学』『自動車技術行政の法体系』『交通規則』『交通信号・交通管制』『高速道路交通管理』『統計』の9種類の現地語教科書をそれぞれ3,000部作成いたしました。
- (2) 教材ビデオ40本を現地語に吹き替えました。

#### 6. その他

期間中に、「中国における主要都市交通調査」を実施し、倍、伊藤両専門家がこれに当たり、C/P1名がそれぞれ同行いたしました。対象都市は、太原、昆明、成都、広州、深圳及び大連の6都市で、調査結果は報告書としてまとめ、関係機関へそれぞれご報告いたしました。

いずれの警察支隊も、創意工夫を凝らし、真剣に、かつ、前向きに、交通事故防止に取り組んでおられる姿を拝見し、深い感銘を受けました。

当訓練センターが、全交通警察支隊のアドバイザーとして、定着することを期待している旨の激励を、戴いておりますことをご紹介いたしておきます。

簡単ではございますが、以上をもって1991年(平成3年)年度事業総括を終らせていただきます。

### III 1992年度事業計画報告

#### A 中側：許抗勝（センター主任）

訓練センタープロジェクトは1988年11月10日にR/Dを締結して以来中日双方の共同の努力の下に、各方面での事業は順調に進展しております。今日現在、大部分の機材は既に到着・据付られており、長期、短期専門家の派遣は半分以上終了しております。C/Pは、3回12人が訪日研修を終了しております。各事業は基本的には実施計画通りに行なわれており、プロジェクトの発展の良い環境を作り出しております。また、このことが私たちの励みにもなっております。訓練センタープロジェクトが中日双方の共同の努力によって、さらに大きな成果を収めることは間違いのないと思います。

一、私たちは、本年下記事業に力を注いで実施していく計画であります。

1. 引き続き日本短期専門家の受け入れおよび技術移転を着実にを行います。  
R/Dに定めた実施計画によれば、92年12月までに交通統計などの短期専門家がセンターにおいて講義する予定であります。中側は仕事、生活、教育環境各方面から短期専門家のためによりよい条件を作りだそうと思っています。C/Pもさらに努力奮闘し、真剣に勉強して、専門家の方々から出来る限りの多くの知識を学ぼうと決意しております。
2. C/Pを組織し、教壇にたたせて、その講義能力を向上させます。  
C/Pを通じ、日本の先進的技術を我が国の交通管理第一線の人々に伝授することは当プロジェクトの重要な目標であります。本年度、中側は引き続いて、計画に基づき、C/Pによる分野別講義を実施し、下半期に一回二週間の30人が参加する交通警察幹部短期専門技術訓練コースを開設する計画であります。
3. 訓練センター管理幹部の充実を徐徐に図り、訓練センターの管理組織及び業務制度を完全なものにし、通訳一名の選択を急いで実施します。
4. C/Pの訪日研修を円満に完成させます。  
本年度の協力計画により、中側は訪日研修に4名のC/Pを派遣します。具体的な人員は顧祝強・鄭永良・徐向陽・戴鈞濟であります。現在、4名のC/Pは日本語のレベル・アップに取組み、業務学習を強化し、訪日研修を円満に完成させるよう、積極的に自分の業務のレベルアップを図っているところであります。
5. C/Pの外国語習得、日本語学習の強化に力を入れます  
教育用日本語ビデオ・テープ、録音テープ及び日本専門家との仕事上での数多い接触の機会を有利な条件として、十分に活用し、C/Pの日本語レベルを向上させ、技術移転における言葉の障害を減らします。
6. 日側から供与された設備の機能の消化、吸収及び安全且つスムーズな運行を着実にを行います。例えば：昨日、訓練センターに引き渡された交通管制システムの正常運行を維持します。
7. 地点、目標を絞り、関係するC/Pを交通管理部門の事故処理科、交通秩序科、運営者訓練科及び車両管理所に派遣、鍛錬、実習させ、交通管理状況をもっと理解してもらい、実力アップを図ります。

8. 専門家宿舎と甲型機の生活環境をさらに改善します。

専門家宿舎の管理と修理を強化し、必要な修理設備を購入し、簡単な修理はすぐに出るようしておきます。甲型機のサービス・レベルをアップし、施設を完全なものにしておきます。

9. 日側事務室の環境をさらに改善します。必要な設備を購入し、据付ます。

例えば：専門家事務室に空調を据付ます。

以上が私たち中側の1992年度における主要な事業目標であります。

ありがとうございました。

## B 日側：倍憲一（チーム・リーダー）

次に、1992年（平成4年度）の事業計画について、ご報告申し上げます。

このP/Jは、本年11月には、満4年を迎えます。その間、C/Pに対する技術移転、P/Jに対する機材供与は、おおむね順調に推移いたしてまいりました。

そこで、今後の円滑な技術移転及び供与機材の効果的活用などを図るための資料とするため、本年2月から3月にかけて、幹部訓練センターと協議の後、C/P16名に対するアンケート調査を実施いたしました。このようなアンケート調査の実施は、当P/Jでは、初めての試みであり、C/P個人に対するプライバシーの侵害や思想調査などにならないよう心がけ、十分内容を吟味しました。結局、アンケート調査は成功し、私どもには、大いに参考になりました。

その中で、大変意を強くするものがありました。

- 「あなたは、困難なことに挑戦する性格ですか」という質問に、「挑戦する性格だ」と答えたC/Pが、12人（75%）もおりました。これは、今後の厳しい中国の交通情勢に対決していくC/Pたちの強い意志の表われであり、これが、将来大きな力となることを強く信じております。
- 「あなたは、座右の銘を持っていますか」の問に、若いC/P全員がそれぞれ格調高い、「心のよりどころ」、「人生哲学」を持っていることが分かり、心強く思いました。
- 「あなたは、C/Pに選ばれたことについて、どう思いますか」について、「良かったと思う」と答えた人が13人（81%）でした。日本語を覚え、日本に友人が出来、世界的視野で中国に貢献できるので、とても喜ばしいと、書き添えたC/Pが何人もおりました。

しかしながら、反面、

- あなたは、供与機材が故障した場合、自分で修理しますか」という質問に、  
「修理する」が6人（38%）  
「修理しない」が10人（62%）

に分かれ、いささか意外な感じを受けました。

中国においては、「修理は専門の人がする」というのが、普通一般の考え方だと聞きましたが、このP/Jでは、沢山の日本製機械の供与を受け、そして、修理を担当する人がいないのですから、簡単な修理ぐらいは、自分で直す心がけが必要だと思うのです。どうしても修理できないときに、初めて専門の修理屋に依頼する、つまり、いつも、使用後のメンテナンスに配慮する心構えが必要であります。これが、新しい時代の教官としてのあるべき姿だと確信いたしております。そして、この心構えが、供与機材を長く活用するコツだとも思うのです。

以上は、当世C/P気質（かたぎ）として、御紹介申し上げます。前置きが長くなりましたが、本年度の事業計画をご説明申し上げます。

#### 1. 長期専門家関係

高橋公一郎調整員は、1992年(平成4年)1月21日までの任期でありましたが、3か月間再延長となり、4月21日に帰国。後任に堀内洋整員が着任しました。  
伊藤俊之交通管理専門家は、4月22日までの任期でありましたが、同じく3か月間再延長となり、7月23日帰国。後任に森田武交通管理専門家が着任いたしました。

#### 2. 短期専門家関係

本年度の短期専門家は、4分野28名が予定されています。

##### (1) 交通管制システム据付・操作指導

小班リレー式 計13名 11週間

(2) 交通統計 5名 5週間

(3) 交通工学 5名 5週間

(4) 交通管制 5名 5週間

#### 3. C/P関係

毎年、C/P達が最大の関心と期待と夢を持つ日本への招致研修は、4名(10/13~11/15)34日間を予定いたしております。

特に今回は、最終回の研修でありますから、掉尾を飾るにふさわしい、収穫を期待いたしているところでございます。

派遣予定者は、願祝強、戴鈞涛、鄒永良、徐向陽君の4名であります。

#### 4. 供与機材関係

供与機材のうち、当初計画分は、前年度をもってすべて終了いたしました。しかし、昨年の合同会議の席上、中国側の熱烈な要望として提議のありました供与機材は、日本で検討の結果、本年度機材として、供与されることになりました。現地責任者として、ご配慮に心から厚くお礼を申し上げます。

##### (1) 熱式ラインマーカー

ア 溶解ペイント用ニーダ車 1式

イ 溶解ペイント用動式ラインマーカー 2式

ウ 溶解ペイント用動式幅広ラインマーカー 1式

エ プライマー散布器 1式

オ 材料運搬車両 1台

カ 作業補助具等 1式

キ 原材料 1式

##### (2) 警察庁方式CRT運転適性検査器 1式

##### (3) 教育実習用信号機等

ア 集中制御用交通信号制御機 1基

イ 超音波式車両感知器本体(2波用) 1基

ウ 同上用送受器 4個

エ 集合変復調装置端末対応部 1ユニット

#### 5. 調査団派遣関係

本年7月30日から8月8日までの9日間、団長以下5名の派遣を戴き、有難うございました。

#### 6. 現地活動関係

当P/Jは、本年度を「充実の年」として位置づけ、従来以上の活力溢れる1年にしたいと念じているところでございます。

中国の交通情勢も、世界各国と同じように、解決すべき現代的課題が出積していると思っております。その一つ一つに、勇気と粘りをもって挑戦し、困難を克服して戴かなければなり

ません。

C/P達は、これまでの3年間で、新しい時代を見つめる広い視野、柔軟な発想、失敗を怖れない、たくましい行動力を培ったはずであります。

この3年間の実績を踏まえて、今後は、自分で企画し、自分が実行し、自分で評価することができるように、この1年にすべてを賭けて取組んで欲しいのです。

このような観点から、本年は、従来にない画期的な現地活動を企画いたしました。経費は、現地の事情を斟酌して、日本側から応分の協力がなされます。企画を実行するに必要なスタッフの選任、緻密な研究と実施を是非お願いしたいと思います。

(1)パンフレットの作成

今年は、最終的なパンフレット作成を考えております。装丁、質、内容ともに前回のものを上回るものにしたいと、日中双方で、企画を練っているところであります。

(2)交通管理国内セミナーの開催

経済の発展と人口の増大及び自転車の大量増加という、各国とは異質の背景を持つ中国の交通情勢も、今、深刻な状況におかれていますと言われます。

このようなセミナーは、なかでも、大量自転車を背景とする交通安全対策など、喫緊の重要問題にスポットを当て、全国の関係者を一堂に集め、意見交換と討論を行う解決の場とし、合わせて、C/Pに対する啓発、当センターのPR、P/Jの深化などを図ろうとするものであります。

10月下旬～11月中旬の間、65名、5泊6日を考えております。

具体的事項は、日中双方で協議します。

(3)交通視察・調査の継続実施

一昨年度から始めたこの視察調査は、C/Pの知識と経験を深め、資質を高める効果的な方法であります。本年も国内主要都市4か所を計画いたしております。

(4)C/Pの機関紙発行への参加

P/Jの紹介、C/Pの研究・視察の成果の発表、交通管理推進上のアイディア発表、文章能力の向上、外国の交通安全対策の紹介などを目的とする機関紙を随時発行し、C/P数名を編集に応援参加させることにいたしております。

最後に、去る1990年(平成2年)5月26日から5月28日までの第一回日中合同委員会の席上、

国家科学技術委員会国際合作司日本処

張 恵 春 処長

が、ご挨拶の中で、中国の俗語に、『馬を走らせながら、花を見る』方法と、『馬から下りて、花を見る』二つの方法があります。わがC/Pは、『馬から下りて、花を見る』努力をして欲しい。つまり、何事に対しても、ときには、匂いを嗅ぎ、あるときには、自ら触れその手をよごすことも大事だよ、と、おっしゃっているかと思えます。

続けて、

- ・ C/Pが、日本語の能力向上に努力することは当然である。
- ・ 供与機材は、中日両国の協力の象徴である。従って、C/Pは、その取扱いに習熟し、永く使用できる工夫をすべき…ことを、言外に匂わせておられます。
- ・ 時間は、あっという間に過ぎる。C/Pは、「責任感」と「緊迫感」を持って、真剣に、技術の供与を受けなさい、と激励ともとれる大胆な発言をされています。私も全く同感であります。中国に、「趁熱打鉄」(鉄は熱いうちに打て)という有名な諺があります。私は、「打たれ強い鉄のようなC/Pになれ」と申し上げ、「充実の年」を迎えるに当たり、C/Pの一層の自覚と努力を切望してやみません。

以上、1992年(平成4年度)事業計画の概要を申しあげました。これにつきましては、あとの協議の中でも、ご討議戴き、私どもに、ご指導・ご助言を賜りますようお願い申し上げます。ご報告を終わります。

ご静聴まことに有難うございました。

#### IV 協議・懇談

##### A 中国側からの要望事項及び日本側回答

###### 1. C/P関係

###### 【中国側要望】

責任者の訪日研修。

日本の現在の先進的交通管理を更に理解するために、教官が技術移転を受け、その内容を理解・消化する過程において、教材の作成、授業・訓練の実施方面で、よりよい指導が出来るよう、また、このプロジェクトが今後発展し、我が国の道路交通管理の面で先進的技術の応用が促進されるよう、責任者若干名を日本へ派遣・研修させてほしい。

###### 【日本側回答】

日本に持ち帰り検討する。

###### 2. 安全運転技能専門家の派遣

###### 【中国側要望】

道路交通安全が更に改善されるためには、よい運転環境を作らなければならない。現在我が国の運転者には、「セフティ・マインド」や「安全運転技能」がかなり不足している。車のスピードの出しすぎ、無理な追越し、先を競っての運転、安全処置不相当等の交通事故多発の温床が随所に見られる。このため、1993年度交通指導・取締りの短期専門家派遣に際しては、「安全運転の知識及び技能」を講義・実習する専門家を加えて欲しい。

###### 【日本側回答】

中央研修所の職員若干名を来年度の短期専門家として暫定計画のほかに派遣することを前提として検討する。

###### 3. 車検設備短期専門家の派遣

###### 【中国側要望】

車検設備がその機能を更に発揮するために、センターでは各地車検の主な管理幹部と技術者を集めた訓練・技術訓練コースの開設及び車検問題検討会の開催を計画している。このためには、中心的教官の車検技術面での知識吸収、レベルアップが急務である。車検設備専門家の派遣を再度お願いし、側滑車両検査技術、車検設備の保守・維持管理、校正、車両管理の経験等の面で講義して頂きたい。

###### 【日本側回答】

検査技術担当1名及び検査機器担当1名計2名を短期派遣専門家として派遣することを前提として検討する。

###### 4. 機材供与関係

###### 【中国側要望】

このプロジェクト最大の供与機材である交通管制システムは、昨日引渡しを受けた。心からお礼を申し上げます。

今後、これらの機材を更に活用し、よりよく機能を発揮させ、このプロジェクトの継続的發展を推進させることを確信している。

しかし、交通管理指導幹部訓練コース等のC/Pによる単独開設は未実施の状況にある。

現在、鋭意努力中であるが、効果的に実施するには、一部の教材が不足しており、この観点から下記機材の追加供与をお願いしたい。

(1) 交通管制システムの保守用機材

・通信制御装置端末対応部	1ユニット
・集合変復調装置FSモデル	2ユニット
・セミフリーボタン主制御装置制御部予備シート	1式
・セミフリボタン図柄用EPROM	20ヶ
・無停電電源装置ヒューズ・ユニット等	1式
・集中端末制御機	1台
・情報端末制御機	1台
・セミフリーボタン情報板シート・ユニット等	1式
・超音波式車両感知器等	1式

(2) 教育・訓練コースを効果的に開設するための機材

・衝突時重力体験装置	1式
・大型映像装置(大スクリーン付)	1式
・ダミー人形(子供)	1体

【日本側回答】

これらの機材は、プロジェクト終了後の維持管理を考慮して検討する。

B 日本側からの要望事項及び中国側回答

1. センターの管理運営関係

【日本側要望】

人事面での充実・強化をお願いしたい。

(1) C/Pに対する指導体制の強化

今年1月1日付、公安部人事異動により、許抗勝副主任は主任に昇格された。しかし、副主任の後任は、今日に至るまで補充されていない。1993年は、本プロジェクトを円満に終結させるための大事な充実の年である。本プロジェクト完了後、センターがスムーズに運営されるために、センターの専任管理幹部の配置をもう一步強めて頂きたい。そのために、指導力と豊富な実務経験を持った副主任等の専任管理幹部を早急に補充・増加して頂きたい。

(2) 通訳の1名増員

現在、訓練センターに配置されている通訳は、1名(C/P兼務)であるが出張、業務多忙、病気、休暇等の事由により、本業に支障を来すことがままあるところである。

今後、C/Pによる分野別コースが活発に開設され、また、技術供与が質的深化の段階に入れば、現状では支障を来すおそれがあるので、ハイレベル通訳の増員を早急をお願いしたい。

【中国側回答】

人事面の充実・強化

(1) C/Pに対する指導体制の強化

中方は訓練センターの実情及びプロジェクト発展の必要性に鑑み、また、中方幹部管理制度と具体的な人選・配置を考慮し、適時、センター専任の管理幹部を補強する。また、我々は中堅幹部の配置を更に強めることを重点とし、センターの幹部体制を逐次完全なものにして行きます。

## (2) 通訳の1名増員

センターの仕事が深く、広く展開されるに伴い、C/Pの日本語のレベルは長足の進歩を遂げ、センターの仕事の順調な展開に力強い保証となった。しかし、現在通訳は1名しかいない。訓練センターの業務が多忙であること、また、その他の理由を考え、我々はすでに1名の通訳では訓練センターの飛躍的な発展に対応出来ないと考えていた。したがって、中方は何回も通訳を物色しており、現在急いで、人選を行っている最中である。

## 2. 交通管制システムの管理運営体制の強化

### 【日本側要望】

当P/Jの最主要機材である交通管制システムは、昨日引渡しを終了した。この間、長期にわたる工事期間中、訓練センター及び無錫市交通警察支隊の温かい協力等に対し、心からお礼を申し上げたい。

このシステムは、世界最新式のものであるが、人による運用が最も重要である。特に、地元の無錫市交通警察支隊に負うところがきわめて大きいので、引続き強力な交通指導取締りをお願いしたい。

なお、管制システムの適切な運用を図るために、必要なエンジニア、宿直員（コンピュータ操作員）及びメンテナンス要員を配置し、同時に管理規則の策定も早急をお願いしたい。

### 【中国側回答】

本プロジェクトの最大の供与機材である交通管制システムは昨日正式に引き渡しが行われた。このシステムの調査から据付実施まで訓練センターでは大量の人員を投入した。また、システムの据付地である無錫市政府、公安局及び交通警察支隊の全面的協力があり、据付工事は順調に行われ、試運行は1回で成功した。

現在訓練センターと無錫市公安局交通警察支隊はこのシステムが長期にわたって順調に運営出来る様、力を充実させ、管理を強化している最中であります。

## 3. C/P関係

C/Pによる教育訓練コースを開設して欲しい。

R/D附表1-1に基づくこのことについては、昨年も強く要望したところであるが、本年は、C/Pもかなりの実力を蓄えたものと考えられる。従って、三分野の訓練コースをC/P独力で、開設することを望みたい。

なお、次の点をC/P実力アップの方法として考慮して戴きたい。

- (1) 無錫市及びその周辺都市の交通警察支隊における実務修習の実施
- (2) 国内主要警察支隊における視察・研修の継続的实施
- (3) 訓練センター教官に必要な教育心理学等必要科目の履修
- (4) 日本の文献が理解できる程度の日本語のレベルアップ
- (5) 供与視聴覚機材の習熟化
- (6) 三分野の訓練コースにとらわれない現実的なコースの開設

### 【中国側回答】

訓練センターの16名のC/Pは日本専門家の熱心な指導の下に、また彼等自身の苦難努力の結果、現在ほぼ全面的に各自の専門分野に必要な知識を得ることが出来た。多くのC/Pは既に講義を行っている。C/Pの各専門分野の技術・技能及び理論レベルを更に高め、特に実務能力を高めるために、訓練センターではC/Pが下記実務を行う様計画している。

- (1) 地点、目標をしぼり、重点項目をあらかじめ決め、関係者を交通管理部門の事故処理



- 科、交通秩序科、運転者訓練科及び車両管理所に派遣し、実習させる。
- (2) 90年、91年に13都市の交通調査を行ったが、これを基礎とし、引続き、地点をしほり、国内の主要な交通警察支隊の視察、研修を行う。
  - (3) C/P(教官)に必要な教育学、心理学等の履修のため、関係専門家を招き特別講座を開く。
  - (4) いろいろな形式の強化手段で引続きC/P日本語のレベルアップを図る。
  - (5) 視聴覚機材の管理及び操作訓練を強化し、C/Pが自由自在にこれらの機材を使える様にする。
  - (6) 1992年下半期交通警察幹部の専門技術訓練コースを開設する。

#### 4. 供与機材関係

このP/Jの主要機材はすべて供与したことに伴い、その活用を図るとともに、使用後の適切な保管管理をお願いしたい。

精巧な機械は、取扱い、保管がいささかでもづさんになると、痛みが早く、例えば15年使用できるパソコンもわずか数年でその使用年数が終る。従って、車検システム、交通管制システム、パソコン、ワープロ、ビデオ装置、OHP等視聴覚教材、自動車、二輪車等すべてについて、早急に責任者を決め、必要な時にいつでも、自由に使い、その後は、必ず細心の手入れをして、「ものを大切に作る心」を醸成してほしい。小さな故障は自分で直す心がけ…これが供与機材を永く、有効に活用する基本的第一歩である。

#### 【中国側回答】

現在、本プロジェクトの主な機材は基本的に供与を完了している。訓練センターではこれらの機材の使用、維持管理、検査について大量の操作、維持管理訓練を行った。すでに多くの管理制度及び方法を具体化しており、これらの機材の長期的、正常運行のためのベースは出来ている。現在、更に管理を強めるため、また、有効的にこれらの機材を使用していくため、これらの機材の取扱説明書を日文から中文に翻訳することを考慮中である。

## V 関係者挨拶

### A 葉冬柏（国家科学委員会国際合作司日本処）

本日私達は、ここで中国道路交通管理幹部訓練センター第三回合同委員会が開催されました。ここまで発展してきたことは、確かに良いことでは、なかったかと思えます。と申しますのは、これは、中国公安部にとっても、日本の警察庁にとっても、初めての総合的な道路管理プロジェクトの協力であると思えます。本プロジェクトは、1988年R/Dを調印してから、中日双方の関係する部門、関係する人の共同の努力のもとで、基本的には、R/Dに従って順調にここまで発展してきました。今迄の3年あまりの間では、主に訓練センターの基礎を作るためにいろいろやってきました、同時にかなりの成果を挙げました。そして、昨日私達は、交通管制システムの引渡し式に出席いたしました。これは、本プロジェクトの最大の技術移転の内容でもあります。この技術移転は、このプロジェクトが成功するかどうかにかかると重要な役割を果たしていると思えます。

ですから、わたしは、ここで中国国家科学委員会を代表致しまして、この訓練センターに勤務されておられた専門家達に対して、敬意と感謝の意を表したいと思えます。そして、中日双方の主管する部門、そして本プロジェクトに対して積極的な支援をしていただいた、江蘇省、無錫市公安局に対しても感謝の意を表します。そして、暑い気候の中にもかかわらず、わざわざ遠い日本からこられた大田審議官を団長とする日本巡回指導調査団の皆様に対しても感謝の意を表します。

このプロジェクトは、R/Dによりますと、あと一年余りの協力期間が残っていますが、私は、日本警察庁、日本国際協力事業団及び日本の専門家達が引き続き協力していただいて、このプロジェクトを中日の道路交通管理面における友好的なシンボルに築きあげたいと願っています。そして、今迄の基礎のもとで中日双方の関係者の密接な協力のもとで、本プロジェクトは、必ず大きな成果を挙げることができると信じております。

さて、私達、国家科学技術委員会の観点から言えば、今では、日本国際協力事業団ルートを通じて、日本政府との間の協力プロジェクト案件は、二十数件ありますが、道路交通管理方面のプロジェクトは、この無錫にある道路交通管理幹部訓練センター一つしかありません。ですから、訓練センターに関係する人は、とくに、カウンターパート達は、日本の専門家達とよく協力して、これからますます努力していかなければいけないと思えます。

カウンターパート達は、日本の専門家からいろいろ先進的な技術を学ぶだけでなく、もっと重要なことは、学んだ知識や技術を消化し吸収しなければいけないと思えます。そして、もっと重要なのは、中国の実際的な状況を調査し、研究しなければいけない。学んだ技術を中国の実際的な状況と組み合わせ、中国の実際的な状況に合った規則やシステムを作らなければいけない。そう言うことによって、このプロジェクトは、きっと、我国の中あるいは、高級交通管理幹部を育成する基地になれると信じております。そして、道路交通近代化に対しても貢献すべきであると思っています。

最後に、あらためて本プロジェクトに対して努力していただいた、各先生達に感謝の意を表したいと思えます。

ご静聴有り難うございました。

### B 奥邨彰一（JICA中国事務所代表）

#### 1. 国際協力事業団中国事務所を代表して、一言ご挨拶申し上げます。

本プロジェクトは、中国公安部とのプロジェクト方式技術協力としては、初めての案件として、1988年に開始されました。以来、4年間にわたり、中国公安部、ならびに関係機関から、多大な御支持とご協力を頂きました。この場をお借りして、関係各位の今までのご尽力に、先ず感謝と敬意を表したいと存じます。

#### 2. さて、実施協議の議事録に定められた5年間の協力期間のうち、既にその80%を過

きたわけですが、これを登山に例えるならば、今は、8合目に着いて、目の前に目指してきた頂上が見え始めてきたというところではないでしょうか。はやる気持ちを押えながら、一步一步確実に目標に近づいていく。と同時にこの時期は、山登りにとって、もっとも困難な時期でもあります。過去に山頂を目と鼻の先にして、登頂を断念せざるをえなかった登山家が如何に多かったということが、この困難さを証明しているといえるでしょう。私たちのこのプロジェクトが成功したといえるかどうかは、むしろこれからの最後の1年間にこそ掛かっています。

3. その意味で、今回の合同委員会は、プロジェクト成功という山頂へのアタックのための、最後のベースキャンプでもあったと思います。ここでは、今までの登山経過を計画書に照らし検討し、残された食料や燃料、自分の健康状態をチェックして、登頂のための対策をしっかりと立てることが重要です。残された時間がわずかだからこそ、小さなミスも命取りになることを忘れてはなりません。

今回の合同委員会で中日双方が有意義な意見交換をした結果を踏まえて、おたがいが、本プロジェクトの成功に向かって、一層の努力をしていくことが、今までにも増して大切であると思います。

4. 最後になりましたが、改めて、関係各位のご努力にお礼を申し上げて、挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

#### C 沈 成林 (無錫市公安局交通警察支隊長)

無錫市公安局交通警察支隊を代表致しまして一言ご挨拶を申し上げます。

日本警察庁と中国公安部のご協力で一番最大の機材であります交通管制システムは無錫市に設置されました。これは、日本警察庁及びJICAが中国無錫市の交通管理に対するご支持だと思っております。しかも、中国公安部が中国道路交通管理幹部訓練センターに対するご支持でもあります。

ここで、私は、無錫市公安局交通支隊を代表致しまして、警察庁及びJICAに対してここからご感謝申し上げます。

それに、公安部及び訓練センターの無錫市の交通管理に対するご支持に対しても、厚く御礼を申し上げます。

この交通管制システムが無錫に設置されていると言うことは、無錫市の交通管理は、今から近代的な手段で管理することになっていることを意味しています。

私達としては、このシステムをうまく使用して、よりよい効果を発揮させるために一生懸命努力致します。それと同時に、中国公安部交通管理局及び訓練センターのご支持のもとで、着実に無錫市の交通管理の近代化に励みたいと思います。

このシステムの活用に当たりましては、これからも、日本警察庁、JICA及び公安部または、訓練センターのご支持をいただきたいと思っております。

それでは、ご在籍の日本の友人の皆様、及び公安部関係の皆様が錫錫でのご滞在が、楽しく愉快に過ごされることをお祈り致します。

謝謝

#### 中日双方責任者挨拶

日側：倍 憲一 (チーム・リーダー)

長期専門家を代表いたしまして、一言お礼のご挨拶を申し上げたいと思います。

今日は、真夏の暑い一日でありました。しかしながら、この新しい近代的な設備のある会

議室の中で、極めて順調に、しかもまた、いまだかつてない和やかな雰囲気の中で、無事に合同会議が終了できますことを私ども心から喜んでおりますし、皆様方に厚くお礼を申し上げたいと思います。

先程は、高団長及び太田団長から、暖かい評価と励ましのお言葉をいただきまして大変感激を致しました。

このプロジェクトの担い手は、私共であると思っております。先程の暖かい励ましのお言葉で、一段と弾みが付いたような気が致します。新しい決意に燃えました。今後、センターと密接なコミュニケーションを経ながら、素晴らしいプロジェクトにして、来年の11月には、円満に終わるように努力致したいと思っております。

率直に申し上げてホット致しました。皆様の暖かいお心遣いに対し、再度お礼を申し上げまして、大変簡単なご挨拶であります、お礼に替えさせていただきたいと思っております。

大変有難うございました。

中側：許 抗勝（センター主任）

ここで先ず、太田団長をはじめとする巡回指導調査団の皆様と、高天明氏を団長とする中国技術協議団の皆様に対して、心から感謝を申し上げます。

この一年間の訓練センターセンターの事業に対して、いろいろなご支持をいただき、これに対しても、厚くお礼を申し上げます。

それに、双方が今回の合同委員会におきまして、協議した内容は、これからも私たち訓練センターの仕事においては、非常に、大いに役立つことだと思っております。

それから、今後とも日本警察庁、JICA及び運輸省からのご支持を心から願っております。それと同時に、中国公安部、国家科学技術委員会及び公安関係の各部門のご支持をさらにいただきたいと思っております。

次に、この機会をお借りしまして、無錫市交通警察支隊に対して、今回の交通管制システムの据え付けにおきまして、多大のご支持をいただきましたことに対しても、あらためて感謝申し上げます。この交通管制システムの設置におきましては、無錫交通支隊から、大量の人員の支援を受けました。交通管制システムの設置されました無錫市南長隊に設置されました制御室は、わが訓練センターの、これからの教育訓練のひとつの基地となると思っております。ここで、あらためて、訓練センターセンターに一いつしやる日本長機専門家の方々のご支持にたいして感謝申し上げます。

このプロジェクトが順調に発展しているということは、中日両国の関係者は、非常に努力した結果だと思っております。これは、お互いに、いろいろな関係部門からご支持を得たからでもあります。

この3年間の協力期間中、私たちは、日本長期専門家との間に、すでに、友好的な、非常に深い友情を結びました。また、これからの具体的な協力項目につきましては、これから長期専門家と検討しながら決めていきたいと思っております。

最後に、訓練センターを代表いたしまして、これからの事業を実施する間に、もっと努力を致しまして、皆様にご理解をしていただきたいと思っております。

先程申し上げましたように、1992年度は、非常に充実的な年であります。本プロジェクトを成功裡に終結させるためにも、有意義な年であります。カウンターパート全員がさらに、大いに努力しまして、訓練センターの計画の実現に向けてがんばっていききたいと思っております。

日本の皆様が、中国でご滞在中、ご健康で楽しく過ごされますよう、心からお祈り致します。

## VI 閉会の挨拶

日側：太田利邦（調査団長）

日本側を代表致しまして一言ご挨拶を申し上げます。

本日の合同委員会が友好の雰囲気の中で、順調に進行致しましたことに対し、厚くお礼申しあげます。

この会議を準備された方々のご努力に対しても、感謝の意を表します。

私の東京におけるボスは関根と申します。そのボスがよく次のように申しております。

「ある調査によると、2005年に世界中で、交通事故で死亡する人が100万人に達すると言われています。」そしてさらに、次のようにも申しています。

「今後の世界では、三つの大きな問題がある。一つは環境問題、二つはエイズの問題、そして三つ目が交通問題である。」

多分、中国において交通問題は、ますます大きな問題になると思います。日本においても全く同じです。交通問題にかかわる私達は、これに対して、十分備えなければなりません。

中国におけるこの準備の一つとして、このプロジェクトが成功することを心から期待致します。多分、この友好の雰囲気の中で行われるこのプロジェクトは、大きな成果を納めるものと確信致します。

今回の私達の訪中に際し、大きな歓迎をいただきましたことをここにあらためて御礼申し上げます。

中国および日本の両国におきまして、交通問題に一生懸命取り組みたいと思います。

今後とも一層仲良くやって行きたいとも思います。

本日は、誠に有り難うございました。

中側：高 天明（委員長代理）

二日間にわたって開かれた中国道路交通管理幹部訓練センタープロジェクト第三回合同委員会は、本日をもって終了致しました。会議期間中、中日双方の調査団は、本プロジェクトの進展に対し調査を行ない、平等、友好、互助、協力の精神に基づいてプロジェクト発展に関する問題について一連の効果的な協議を行い、多くの問題について意見の一致を見た。今回の会議は、大成功だったと言えるでしょう。今回の会議で、訓練センターの今後の事業方向が明確になり、このことが必ずプロジェクトの更に一步進んだ発展の大きな推進力となるでしょう。

私たちは、訓練センターが三年間の努力を重ね既に多くの喜ばしい成果を収めていることを見て、うれしく思っています。今日現在までに、14団延73人の短期専門家が訪中し授業を行ないました。本プロジェクト最大の技術移転項目である無錫市交通管制センターの設備は、既に調整試運行を完了しております。C/Pは基本的に専門家の授業の内容を把握しており、わりと慣れた手つきでセンターの設備を操作することができます。今は、現状に基づきパラメーターを調整しています。従って、正に私が開会の挨拶で申し上げたように、訓練センターは、既に収穫準備の季節に入ったと言えるでしょう。

同時に、私たち双方の調査団の調査で、本プロジェクトに欠けている面が見つかりました。そのうちの一つは、日本の専門家から知識を得ることに重点を置くと同時に、いかにそれを中国の実状に応用していくかという面で十分ではなかったと思います。C/Pの知識と中国の実状が求めている知識との間にまだへだたりがあります。次の段階では、調査研究に重点を置き、また、C/Pがテーマを決めて現場に行くべきだと思います。つまり、実践の中で有機的に日本の先進的技術を吸収し、中国の交通実状に合った交通管理の道を探すべきだと思います。

とにかく、これからの一年あまりの時間で、C/Pが更に積極的に日本の専門家から日本の先進的管理技術と仕事に対する厳格な姿勢を学び、中日双方の共同の努力の下に、訓練セ

ンターが中国道路交通管理幹部訓練センターの大本営になることを望みます。私の挨拶は以上です。ありがとうございました。

本議事録は、日本文および中国文を作成し、日中双方が一通ずつ保有する。

無 錫 1992年8月6日

中国道路交通管理幹部訓練センター  
日本側プロジェクト・チームリーダー

中国道路交通管理幹部訓練センター  
主 任

倍 憲 一

( 倍 憲 一 )

許 抗 勝

( 許 抗 勝 )

## 5. 交通管制システム設備引き渡し

### 5-1 開催要領

◎ 時間： 1992年8月3日(月) 13時半～15時半

◎ 場所： 交通管制センター(無錫市公安交通警察支隊南長大隊庁舎)

◎ 主催： 日本国際協力事業団(JICA)  
中国道路交通管理幹部訓練センター(TMTC)

◎ 参列者： 日側：太田 利邦 JICA巡回指導調査団団長  
堀金 忠 " 団員  
隈田 一郎 " "  
高橋 邦夫 " "  
阪本日出雄 " "  
奥邨 彰一 JICA中国事務所  
倍 憲一 専門家チーム リーダー  
森田 武 " 交通管理専門家  
堀内 洋 " 調整員

(計9名)

中側：張 正 常 公安部交通管理局長  
高 天 明 公安部交通管理局副局長(技術調査団団長)  
葉 冬 柏 国家科学技術委員会国際合作司日本処  
張 殿 平 公安部交通管理局科学技術処処長  
沈 志 農 公安部交通管理局宣教処  
金 躍 公安部交通管理局科学技術処  
許 抗 勝 中国道路交通管理幹部訓練センター主任  
管 国 忠 " 弁公室主任  
金 同 明 " 教務科副科長

(計9名)

◎ 来賓： 日側：三宅 茂 在上海日本国総領事館領事

(計1名)

中側：華 煥 林 無錫市副市長  
張 樹 森 江蘇省公安厅交通管理局政治委員  
孫 榮 根 無錫市委員会常任委員・公安局長  
周 光 岳 無錫市公安副局長  
沈 成 林 無錫市公安交通警察支隊長  
芮 志 良 無錫市公安交通警察支隊政治委員  
白 希 賢 無錫市科学技術委員会主任  
時 雨 無錫市外事弁公室主任  
錢 裕 盛 無錫市財政局長

(計9名)

## 5-2 式次第

1. 開会宣言 司会：許 抗勝（中国道路交通管理幹部訓練センター主任）  
参列者及び来賓紹介
2. 参列者挨拶  
中 側：張 正 常（公安部交通管理局長）  
日 側：太田 利邦（J I C A 巡回指導調査団団長）
3. 来賓祝辞  
中 側：孫 榮 根（無錫市公安局長）  
日 側：三宅 茂（在上海日本国総領事館領事）
4. 供与機材目録贈呈（日側→中側）、受領書返呈（中側→日側）  
目録内容紹介
5. テープ・カット  
日 側：太田 利邦、三宅 茂  
中 側：張 正 常、華 煥 林（無錫市副市長）
6. 乾杯
7. デモンストレーション
8. 閉会宣言
9. 看板設置及び記念撮影（1階玄関前）
10. 信号交差点の視察及び広報
11. 解散



## 5-3 中国側挨拶

交通管制システム引き渡し式  
張正常公安部交通管理局長

日本国際協力事業団（JICA）が中日協力プロジェクトとする中国道路交通管理幹部訓練センターに供与される交通管制システムは、無錫市各関係部門の大きな支持を受け、日側の長期・短期専門家と中側の各技術者との密接な共同の努力により、2ヵ月あまりの緊張した据え付け、調整及び操作指導を経て、本日ここに盛大な引き渡し式を行っているところであります。

私は、公安部交通管理局を代表いたしまして、御参列の皆様にも熱烈な歓迎の意を表明し、据え付け、調整、操作指導に取り組み勤勉に努力してこられた日本の長期・短期専門家並びに無錫市地方政府と作業に励んでこられた皆様に心から感謝の意を表明いたします。

交通管制システムは、近代的に交通を管理する重要な手段であります。今回、日本国際事業団（JICA）が供与されたシステムは、技術面が先進的で、製造も精密で、機能が比較的に整ったものであります。しかも、中日双方の共同調査・研究に基づいて自転車を管理する一部の機能も増設しております。訓練センターの教育実践において、わが国の交通管理幹部及び専門技術中堅の専門技術知識を高めることについて積極的な役割を果たすことは疑いありません。

このシステムは、実際に無錫市南部のエリアに整備され、開通・運用するに伴い、このエリアの道路交通管理に対して、大きな社会的な効果と、経済的な効果をもたらすに違いありません。

中国道路交通管理幹部訓練センターにおけるプロジェクトは、もうほぼ4年の道のりを順調に歩んで来まして、続々と、そして丸々とした果実が実っているところであります。この交通管制システムの開通・運用は、その有力な証明であります。

過去を振り返り、未来を展望し、私たちは、自身に溢れております。

中日双方の共同努力による訓練センターの協力プロジェクトは、きっと円滑に成功裡に終ることと私は確信しております。

中国両国民の友情がますます発展してまいりますことをお祈りいたします。

どうも、有難うございました。

1992年8月3日

## 5-4 交通管制システム引き渡し品目録

- |                    |      |
|--------------------|------|
| 1. 交通管制システム        | 1 式  |
| 内 訳                |      |
| 中央装置及びソフトウェア       |      |
| 1. 電子計算機システム       | 1 式  |
| 2. 通信装置            | 1 式  |
| 3. 情報提供装置          | 1 式  |
| 4. 投影表示装置          | 1 式  |
| 5. CCTV監視システム      | 1 式  |
| 6. システム表示板         | 1 式  |
| 7. 交通管制ソフトウェア      | 1 式  |
| 端末装置               |      |
| 1. 交通信号制御装置        | 8 基  |
| 2. セミフリーパターン式交通情報板 | 2 基  |
| 3. 超音波式車両感知器       | 26 基 |
| 4. 超音波ドップラ式車両感知器   | 1 基  |
| 5. ループ式車両感知器       | 2 基  |
| 6. CCTV端末装置        | 3 基  |
| 2. その他             |      |
| 1. 保守用品            | 1 式  |
| 2. 消耗品             | 1 式  |
| 3. 短期専門家携行機材等      | 1 式  |

平成4年(1992年)8月3日

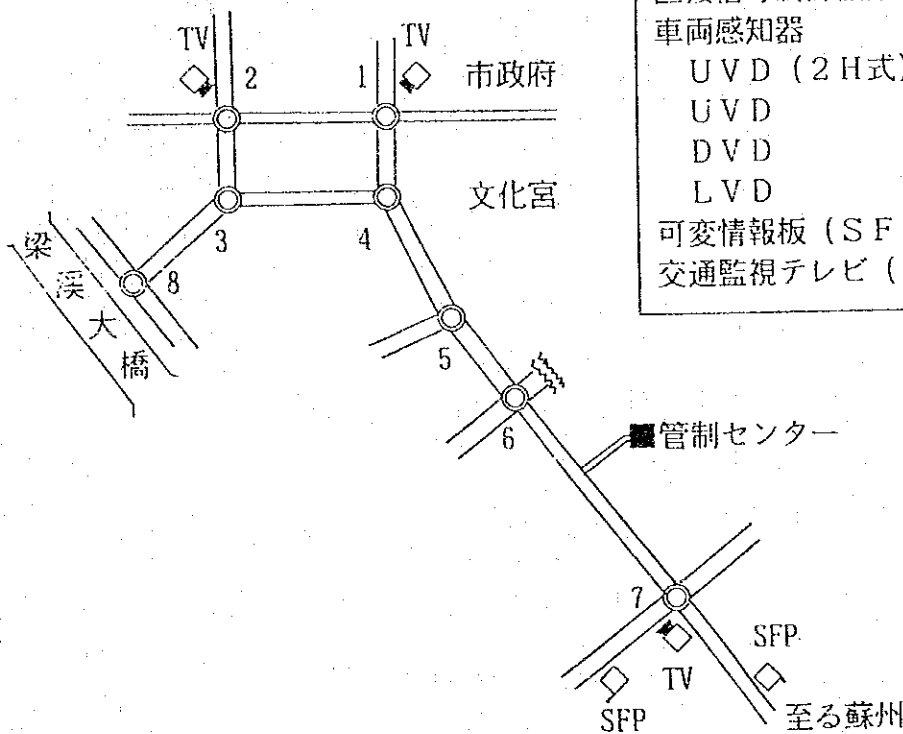
日本国際協力事業団

中国道路交通管理幹部訓練センター殿

# 中国道路交通管理幹部訓練センター 無錫市交通管制センターの概要紹介

☆交通管制センター所在地：無錫市清揚路  
南長区交通警察大隊4F

管制センター  
付近略図



管制規模

直接信号制御機数	8基
車両感知器	
UVD (2H式)	23基
UVD	3基
DVD	1基2波
LVD	2基
可変情報板 (SFP)	2基
交通監視テレビ (CCTV)	3基

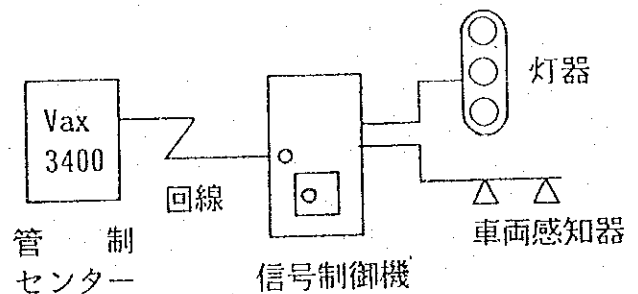
## 1 交通管制センター設備

管制室 (79m<sup>2</sup>) ・ 機械室 (71m<sup>2</sup>) ・ 電源室 (9m<sup>2</sup>) ・ 配電室 (9m<sup>2</sup>)  
講義室 (48m<sup>2</sup>) ・ 事務室 (30m<sup>2</sup>) ・ 当直室 (24m<sup>2</sup>) ・ 浴室&トイレ

4F 延床面積 (315m<sup>2</sup>)

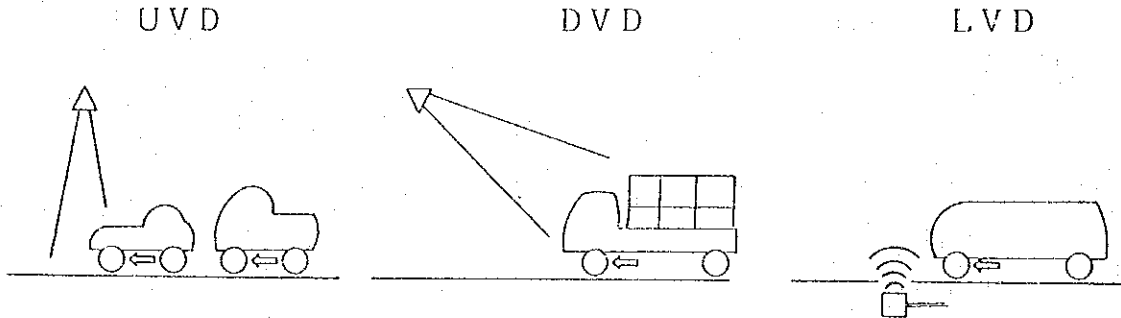
## 2 直接信号制御機

形式 LTC-A02  
最大ステップ数 32  
灯器出力数 32  
          ┌ 1~4  
          ├ 1P~4P  
          └ 1A~4A  
現示数 8 (最大)



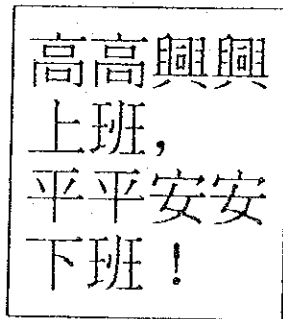
3 車両感知器

- UVD (2H式) : 超音波式2ヘッド方向判別機能付き
- UVD : 超音波式1ヘッド
- DVD : 超音波ドップラ式車両速度測定器
- LVD : ループコイル式



4 可変情報板 (SFP)

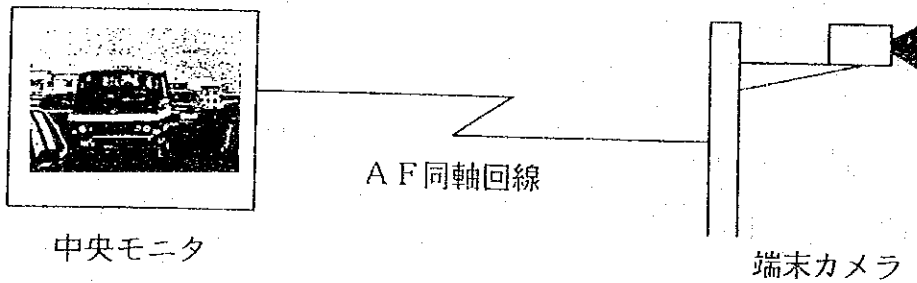
表示例



性能

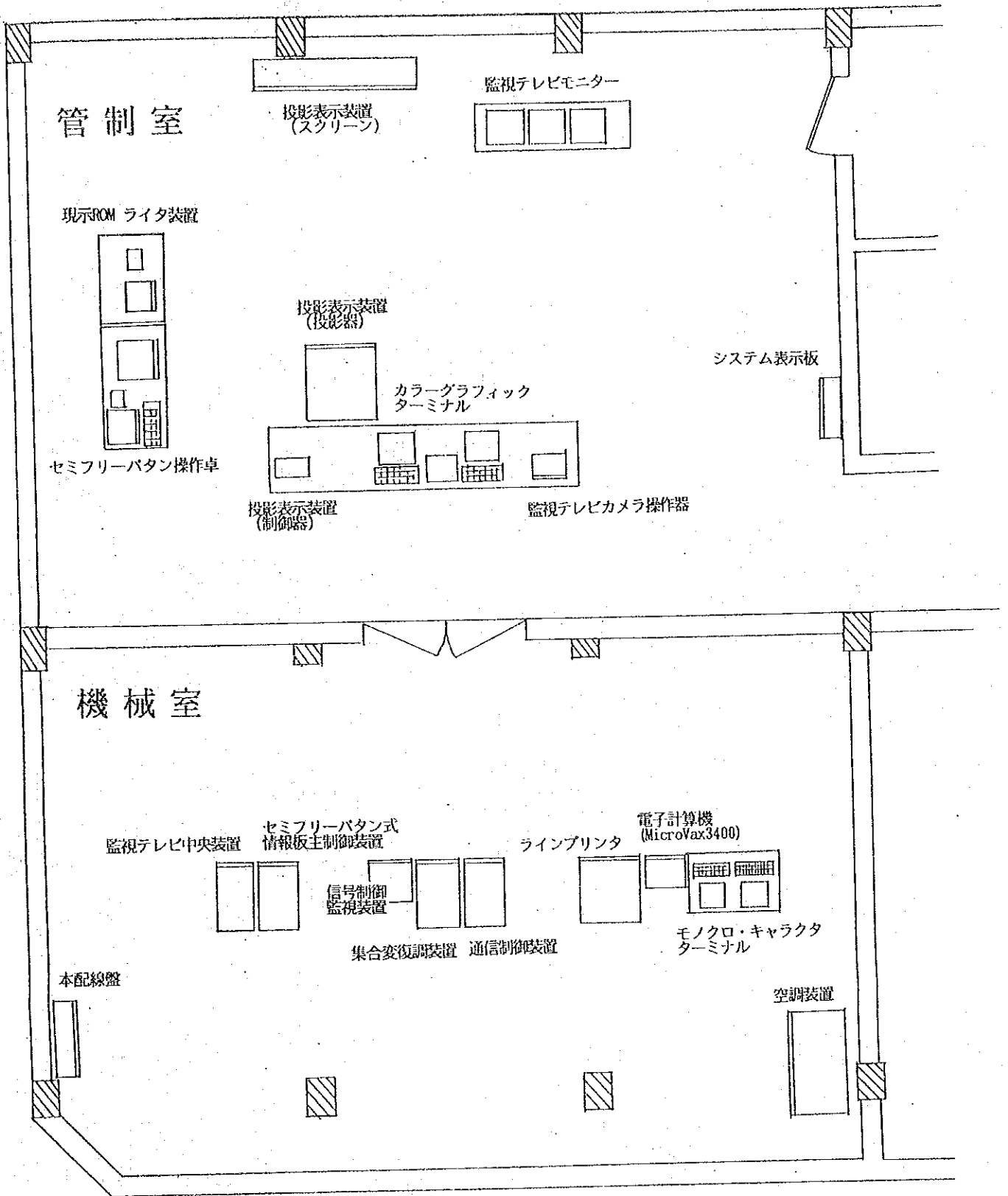
- 発光素子 23φLED
- 素子数 16×16ドット/文字
- 発光色彩 3種(黄・赤・混合)
- 表示字数 4字×4字

5 交通監視テレビ (CCTV)



- 方式: NTSC
- 素子: 0.51μm/CCD
- 密度: 450 × 350本

# 管制室および機械室機器配置図





## 付属資料

- ① 技術協力に関する協議覚書
- ② カウンターパート名簿
- ③ プロジェクトに対する日本側からの投入実績
  1. 長期専門家の派遣
  2. 短期専門家の派遣
  3. 研修員の受け入れ





## 中国道路交通管理幹部訓練センタープロジェクトのための 技術協力に関する協議覚書

国際協力事業団は、太田利邦を団長とする日本側巡回指導調査団を組織し、中国道路交通管理幹部訓練センタープロジェクトに関し、本プロジェクトの進捗状況の確認と今後の協力計画を策定するため、1992年7月30日から8月8日までの日程で、中華人民共和国に派遣した。

中華人民共和国公安部は、高天明を団長とする技術協力調査団を組織した。

本プロジェクトを効果的に推進するため、双方は、8月4日から6日までの間、江蘇省無錫市における第3回日中合同委員会に参加し、誠実で友好的な雰囲気の中で、当プロジェクトの進捗状況について調査した。双方は共に、この一年間の訓練センターは素晴らしい成果が上がっており、1992年度の計画は、実行可能なものであると理解した。双方は平等、友好、協議、協力の原則に基づいて、一連の問題につき意見交換と真剣な協議を行い、その結果、双方は付属文書に記載する諸事項について確認した。

1992年8月6日

無錫

太田利邦

高天明

太 田 利 邦

高 天 明

巡回指導調査団団長

技術協力調査団団長

日本国際協力事業団

中華人民共和国公安部

## 付 属 文 書

### I 中国側からの要望事項及び日本側回答

#### 1 C/P関係

##### 【中国側要望】

責任者の訪日研修。

日本の現在の先進的交通管理を更に理解するために、教官が技術移転を受け、その内容を理解・消化する過程において、教材の作成、授業・訓練の実施方面で、よりよい指導が出来るよう、また、このプロジェクトが今後発展し、我が国の道路交通管理の面で先進的技術の応用が促進されるよう、責任者若干名を日本へ派遣・研修させてほしい。

##### 【日本側回答】

日本に持ち帰り検討する。

#### 2 安全運転技能専門家の派遣

##### 【中国側要望】

道路交通安全が更に改善されるためには、よい運転環境を作らなければならない。現在我が国の運転者には、「セフティ・マインド」や「安全運転技能」がかなり不足している。車のスピードの出しすぎ、無理な追越し、先を競っての運転、安全処置不相当等の交通事故多発の温床が随所に見られる。このため、1993年度交通指導・取締りの短期専門家派遣に際しては、「安全運転の知識及び技能」を講義・実習する専門家を加えて欲しい。

##### 【日本側回答】

中央研修所の職員若干名を来年度の短期専門家として暫定計画のほかに派遣することを前提として検討する。

#### 3 車検設備短期専門家の派遣

##### 【中国側要望】

車検設備がその機能を更に発揮するために、センターでは各地車検の主な管理幹部と技術者を集めた訓練・技術訓練コースの開設及び車検問題検討会の開催を計画している。このためには、中心的教官の車検技術面での知識吸収、レベルアップが急務である。車検設備専門家の派遣を再度お願いし、側滑車両検査技術、車検設備の保守・維持管理、校正、車両管理の経験等の面で講義して頂きたい。

【日本側回答】

検査技術担当1名及び検査機器担当1名計2名を短期派遣専門家として派遣することを前提として検討する。

4 機材供与関係

【中国側要望】

このプロジェクト最大の供与機材である交通管制システムは、昨日引渡しを受けた。心からお礼を申し上げます。

今後、これらの機材を更に活用し、よりよく機能を発揮させ、このプロジェクトの継続的發展を推進させることを確信している。

しかし、交通管理指導幹部訓練コース等のC/Pによる単独開設は未実施の状況にある。現在、鋭意努力中であるが、効果的に実施するには、一部の教材が不足しており、この観点から下記機材の追加供与をお願いしたい。

(1) 交通管制システムの保守用機材

・通信制御装置端末対応部	1ユニット
・集合変復調装置FSモデル	2ユニット
・セミフリーボタン主制御装置制御部予備シート	1式
・セミフリボタン図柄用EPROM	20ヶ
・無停電電源装置ヒューズ・ユニット等	1式
・集中端末制御機	1台
・情報端末制御機	1台
・セミフリーボタン情報板シート・ユニット等	1式
・超音波式車両感知器等	1式

(2) 教育・訓練コースを効果的に開設するための機材

・衝突時重力体験装置	1式
・大型映像装置(大スクリーン付)	1式
・ダミー人形(子供)	1体

【日本側回答】

これらの機材は、プロジェクト終了後の維持管理を考慮して検討する。

## II 日本側からの要望事項及び中国側回答

### 1 センターの管理運営関係

#### 【日本側要望】

人事面での充実・強化をお願いしたい。

#### (1) C/Pに対する指導体制の強化

今年1月1日付、公安部人事異動により、許抗勝副主任は主任に昇格された。しかし、副主任の後任は、今日に至るまで補充されていない。1993年は、本プロジェクトを円満に終結させるための大事な充実の年である。本プロジェクト完了後、センターがスムーズに運営されるために、センターの専任管理幹部の配置をもう一步強めて頂きたい。そのために、指導力と豊富な実務経験を持った副主任等の専任管理幹部を早急に補充・増加して頂きたい。

#### (2) 通訳の1名増員

現在、訓練センターに配置されている通訳は、1名(C/P兼務)であるが、出張、業務多忙、病気、休暇等の事由により、本業に支障を来すことがままあるところである。

今後、C/Pによる分野別コースが活発に開設され、また、技術供与が質的深化の段階に入れば、現状では支障を来たすおそれがあるので、ハイレベル通訳の増員を早急をお願いしたい。

#### 【中国側回答】

人事面の充実・強化

#### (1) C/Pに対する指導体制の強化

中方は訓練センターの実情及びプロジェクト発展の必要性に鑑み、また、中方幹部管理制度と具体的な人選・配置を考慮し、適時、センター専任の管理幹部を補強する。また、我々は中堅幹部の配置を更に強めることを重点とし、センターの幹部体制を逐次完全なものにして行きます。

#### (2) 通訳の1名増員

センターの仕事が深く、広く展開されるに伴い、C/Pの日本語のレベルは長足の進歩を遂げ、センターの仕事の順調な展開に力強い保証となった。しかし、現在通訳は1名しかいない。訓練センターの業務が多忙であること、また、その他の理由を考え、我々はすでに1名の通訳では訓練センターの飛躍的な発展に対応出来ないと考えていた。したがって、中方は何回も通訳を物色しており、現在急いで、人選を行っている最中である。

## 2 交通管制システムの管理運営体制の強化

### 【日本側要望】

当P/Jの最主要機材である交通管制システムは、昨日引渡しを終了した。この間、長期にわたる工事期間中、訓練センター及び無錫市交通警察支隊の温かい協力等に対し、心からお礼を申し上げたい。

このシステムは、世界最新式のものであるが、人による運用が最も重要である。特に、地元の無錫市交通警察支隊に負うところがきわめて大きいので、引き続き強力な交通指導取締りをお願いしたい。

なお、管制システムの適切な運用を図るために、必要なエンジニア、宿直員（コンピュータ操作員）及びメンテナンス要員を配置し、同時に管理規則の策定も早急をお願いしたい。

### 【中国側回答】

本プロジェクトの最大の供与機材である交通管制システムは昨日正式に引き渡しが行われた。このシステムの調査から据付実施まで訓練センターでは大量の人員を投入した。また、システムの据付地である無錫市政府、公安局及び交通警察支隊の全面的協力があり、据付工事は順調に行われ、試運行は1回で成功した。

現在訓練センターと無錫市公安局交通警察支隊はこのシステムが長期にわたって順調に運営出来る様、力を充実させ、管理を強化している最中であります。

## 3 C/P関係

C/Pによる教育訓練コースを開設して欲しい。

R/D附表1-1に基づくこのことについては、昨年も強く要望したところであるが、本年は、C/Pもかなりの実力を蓄えたものと考えられる。従って、三分野の訓練コースをC/P独力で、開設することを望みたい。

なお、次の点をC/P実力アップの方法として考慮して戴きたい。

- (1) 無錫市及びその周辺都市の交通警察支隊における実務修習の実施
- (2) 国内主要警察支隊における視察・研修の継続的实施
- (3) 訓練センター教官に必要な教育心理学等必要科目の履修
- (4) 日本の文献が理解できる程度の日本語のレベルアップ
- (5) 供与視聴覚機材の習熟化
- (6) 三分野の訓練コースにとられない現実的なコースの開設

### 【中国側回答】

訓練センターの16名のC/Pは日本専門家の熱心な指導の下に、また彼等自身の苦難努力の結果、現在ほぼ全面的に各自の専門分野に必要な知識を得ることが出来た。多くのC/Pは既に講義を行っている。C/Pの各専門分野の技術・技能及び理論レベルを更に高め、特に実務能力を高めるために、訓練センターではC/Pが下記実務を行う様計画している。

- (1) 地点、目標をしぼり、重点項目をあらかじめ決め、関係者を交通管理部門の事故処理科、交通秩序科、運転者訓練科及び車両管理所に派遣し、実習させる。
- (2) 90年、91年に13都市の交通調査を行ったが、これを基礎とし、引続き、地点をしぼり、国内の主要な交通警察支隊の視察、研修を行う。
- (3) C/P(教官)に必要な教育学、心理学等の履修のため、関係専門家を招き特別講座を開く。
- (4) いろいろな形式の強化手段で引続きC/P日本語のレベルアップを図る。
- (5) 視聴覚機材の管理及び操作訓練を強化し、C/Pが自由自在にこれらの機材を使える様にする。
- (6) 1992年下半期交通警察幹部の専門技術訓練コースを開設する。

#### 4 供与機材関係

このP/Jの主要機材はすべて供与したことに伴い、その活用を図るとともに、使用後の適切な保管管理をお願いしたい。

精巧な機械は、取扱い、保管がいささかでもづさんになると、痛みが早く、例えば15年使用できるパソコンもわずか数年でその使用年数が終る。従って、車検システム、交通管制システム、パソコン、ワープロ、ビデオ装置、OHP等視聴覚教材、自動車、二輪車等すべてについて、早急に責任者を決め、必要な時にいつでも、自由に使い、その後は、必ず細心の手入れをして、「ものを大切に作る心」を醸成してほしい。小さな故障は自分で直す心がけ…これが供与機材を永く、有効に活用する基本的第一歩である。

#### 【中国側回答】

現在、本プロジェクトの主な機材は基本的に供与を完了している。訓練センターではこれらの機材の使用、維持管理、検査について大量の操作、維持管理訓練を行った。すでに多くの管理制度及び方法を具体化しており、これらの機材の長期的、正常運行のためのベースは出来ている。現在、更に管理を強めるため、また、有効的にこれらの機材を使用していくため、これらの機材の取扱説明書を日文から中文に翻訳することを考慮中である。

# 有关中国道路交通管理干部培训中心项目

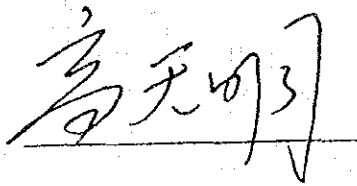
## 技术合作协议备忘录

为了确认中国道路交通管理干部培训中心项目的发展情况、制定今后的合作计划，日本国际协力事业团组织了以太田利邦为团长的日方巡回指导调查团，于一九九二年七月三十日~八月八日，访问了中华人民共和国。

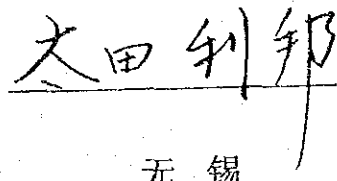
中华人民共和国公安部组织了以高天明为团长的技术合作调查团。

为了有效地促进该项目的发展，双方一道在诚挚友好的气氛中于八月四日~六日在江苏省无锡市参加了第三次中日联合委员会，调查了该项目的进展情况，双方对培训中心的工作是满意的，同时认为1992年度的工作计划是可行的，并本着平等、友好、协商、合作的原则，就一系列的问题交换了意见，同时进行了认真的讨论。其结果，双方确认在附件中所记载的各条事项中。

中华人民共和国公安部  
技术合作调查团团长  
高 天 明



日本国际协力事业团  
巡回指导调查团团长  
太 田 利 邦



无 锡  
一九九二年八月六日

## 附 件

### I 中方的要求事项及日方的回答

#### 1 有关对等人员

##### 【中方要求】

##### 负责人的访日研修

为了进一步了解日本当前交通管理先进技术，在师资人员接受技术转移，理解、消化其内容的过程中，和在教材编写、讲课的实施培训等工作方面，能给予更好的指导，以及在项目今后的发展中，促进我国道路交通管理方面先进技术的应用，希望选派负责人若干名去日本研修。

##### 【日方回答】

带回日本讨论。

#### 2 派遣安全驾驶技能的专家

##### 【中方要求】

为使道路交通安全进一步改善，必须造成一个良好的驾驶环境。目前，我国驾驶人员有关“安全意识”和“安全驾驶技能”还相当不足。在行车过程中经常出现：车速过快、强行超车、抢道行驶、安全措施不当等多种交通事故隐患。因此，希望1993年的交通指导、取缔短期专家的派遣中，增加“安全驾驶知识及技能”讲课、指导专家。

##### 【日方回答】

以中央研修所的若干名职员为下一年度的短期专家，把暂定计划之外的派遣事项作为前提进行讨论。

#### 3 车检设备短期专家的派遣

##### 【中方要求】

为了更好地发挥车检设备的作用，中心拟开办各地车检线主要管理



干部和技术骨干岗位培训班和技术培训班，以及举办有关车检技术问题研讨会。为此，急需提高中心教官在车检技术方面的知识和水平。再次希望能增派车检设备短期专家，侧重进行车检技术、车检设备保养、维护、校正，车检管理工作经验等方面的讲课。

**【日方回答】**

以1名检查技术专家和1名检查设备专家（共2名）为短期专家，把派遣事项作为前提进行讨论。

**4 器材提供方面**

**【中方要求】**

本项目最大的提供器材，交通控制系统昨天举行了交接仪式，我们表示衷心感谢。确信今后这些器材能进一步使用好，更好地发挥其作用，并籍此以推进项目的继续发展。

但是，交通管理指挥干部培训班尚未由对等人员独立承担过，目前，我们正在积极努力地加以实施。然而，要有效地实施这一计划，一部分教具还不充足，为此希望增加提供下列器材。

**(1) 交通控制系统保养用器材**

- 通信控制装置终端对应部 一单元
- 集合变复调装置FS反调装置 2单元
- 情报板主控装置控制部线路板备品 1套
- 情报板画面用EPROM 20个
- 不间断电源装置保险丝部件等 1套
- 集中终端控制机 1台
- 情报终端控制机 1台
- 情报板线路板部件等 1套
- 超声波式车辆检测器等 1套

**(2) 有效开设教学、培训班用的器材**

- 冲撞时速度自测装置 1套
- 大型放像设备（带大屏幕） 1套
- 人体模型（儿童） 1个

### 【日方回答】

考虑到项目结束后的维持管理，进行讨论。

## II 日方要求事项及中方回答

### 1 培训中心的管理运行

#### 【日方要求】

人事方面的充实、强化

#### (1) 强化对对等人员的指导体制

根据今年一月一日公安部人事变动通知，许抗胜副主任提升为主任，但副主任的后任至今没有补充。1993年是项目实施圆满结束的关键充实年，为了使项目建成后，中心能顺利运转，希望进一步加强对中心专职干部的配备。为此要求尽快补充、增加具有指导力和丰富实务经验的副主任等专职管理干部。

#### (2) 增加一名翻译人员

现在培训中心配备的翻译是由一名对等人员兼任的，由于出差、业务繁忙、生病、休假等原因，给工作带来许多困难。

今后，由对等人员开设的各个培训班更多，在这种情况下，会给技术提供进入实质性深化阶段带来障碍，为此，要求尽快增加一名高水平的翻译人员。

#### 【中方回答】

关于人事方面的充实、强化

#### (1) 关于强化对对等人员的指导体制

中方将根据培训中心的实际情况和项目发展的需要，并充分考虑中方干部管理制度和具体人员的选配，适时加强中心专职干部。此外，我们将重点进一步加强中层干部的选配，逐步完善中心的干部体制。

#### (2) 关于增加一名翻译人员

随着培训中心工作深入、广泛地开展，师资人员的日语水平已有了长足的进步，为中心各项工作的顺利开展，提供了强有力的保证。然而，目前仅有一名翻译。由于培训中心业务繁忙，加上其它原因，我们也已经考虑到只有一名翻译难以适应培训中心蓬勃发展的需要，因此中方也多次物色了翻译人选，目前正在抓紧做工作。

## 2 强化交通控制系统的管理运行体制

### 【日方要求】

本项目最主要的器材交通控制系统昨天进行了交接仪式，对于在长期工程期间，培训中心及无锡市交警支队的大力协助表示衷心感谢。

这套系统是世界上最先进的，但最重要的是人的操作管理，特别是当地的无锡市交警支队担负着很大的责任，希望继续加强交通指导、取缔管理。

此外，为了使控制系统能顺利运行，请尽快配备必要的技术人员、值班人员（计算机操作员）及维修人员，制订管理制度。

### 【中方回答】

本项目最大的提供器材交通控制系统昨天已进行了正式移交，自系统实施调查、安装以来，培训中心投入了大量人员，并且在系统的安装地——无锡市市政府、公安局及交警支队的全力支持下，使这套交通控制系统的安装工程得以顺利进行，并且一次试运行成功。

目前，培训中心和无锡市公安局交警支队为了保证这套系统能够长期顺利运行，正在充实力量、加强管理。

## 3 有关对等人员

### 【日方要求】

希望由对等人员开设教学、培训班。

根据R/D附表1-1所说的，去年也曾强烈要求过，我们认为对等人员今年已有相当的实力，所以，希望由对等人员独立开设三个类型培训班。

希望考虑下面几点作为提高对等人员实力的方法：

- (1) 到无锡市及其周围城市的交警支队进行实际业务的学习。
- (2) 继续到国内主要交警支队进行考察研修。
- (3) 学习做培训中心教官所需的教育心理学等必修课程。
- (4) 提高能理解日文文献程度的日语水平。
- (5) 熟练掌握所提供视听器材的使用。
- (6) 开设三个类型训练班以外的具有现实意义的训练班。

### 【中方回答】

培训中心16名对等人员在日本专家的悉心指导下，在他们自己的刻苦努力下，目前已较全面地掌握了各自专业所需的知识结构，许多对等人员已经进行了讲学活动。为了进一步提高对等人员在各个专业领域内的技术、技能和理论水平，特别是实际工作能力，培训中心计划安排对等人员开展以下实际工作：

(1) 有重点地、针对性地事先确定重点项目，安排有关人员到交通管理部门的事故处理科、交通秩序科、驾驶员培训科和车辆管理所实习。

(2) 在90、91年已经进行的十三个城市交通调查的基础上，继续有重点地针对国内主要交通警察支队进行考察、研修。

(3) 针对对等人员的特点、需要，聘请有关专家举办教育学和心理学等课程的专题讲座。

(4) 运用多种形式的强化手段，继续提高对等人员日语水平。

(5) 加强视听器材的管理和操作训练，使对等人员能够得心应手地使用这些器材。

(6) 1992年下半年开设交通警察干部的专业技术培训课程。

#### 4 提供器材方面

##### 【日方要求】

随着本项目的器材提供完毕，在谋求灵活应用这些器材的同时，希望使用以后，妥善地保存、管理好器材。

精密的器材如不注意使用、保管，就会缩短使用寿命。例如：能使用15年的计算机，只用了几年其使用年限就结束了。

因此，希望所有的车检系统、交通控制系统、计算机、打字机、录像设备、OHP等视听教具，汽车、摩托车等设备都要早日指定负责人，以保证必要时随时都能使用自如。使用后一定要仔细保养好，要养成“爱物之心”，要有小故障自己修理的习惯，这是长期、有效地灵活应用供应器材基本的第一步。

##### 【中方回答】

到目前为止，本项目主要器材已基本提供完毕，培训中心就这些器材的使用、维护、检查进行了大量的操作培训工作，已制订出了许多具体的管理制度和办法，为保证这些器材长期正常运行奠定了基础。目前，为了进一步加强管理，并且为了把这些设备有效地使用下去，我们正在考虑将这些器材的操作说明书由日文翻译成中文。

カウンターパート名簿

No	分野	氏名	性別	生年月日	最終学歴	配置年月	備考
1	交通管理	陸曉東	男	1964. 1. 31	大卒	1988. 11	
2	交通管理	曾一軍	男	1964. 2. 25	修士	1989. 1	
3	交通安全	葛聞雷	男	1963. 3. 26	修士	1988. 11	
4	交通安全	戴鈞涛	男	1963. 11. 30	短大	1990. 10	
5	車両管理	尚煒	男	1957. 8. 26	大卒	1988. 11	
6	車両管理	金同明	男	1960. 6. 6	大卒	1989. 1	
7	運転者管理	張仲仁	男	1946. 12. 9	大卒	1990. 4	
8	運転者管理	徐向陽	男	1965. 5. 4	修士	1991. 4	
9	交通工学	華永紅	男	1965. 3. 19	修士	1989. 1	
10	交通工学	鄒永良	男	1963. 8. 14	大卒	1990. 10	
11	交通計画	丁佑民	男	1960. 12. 7	修士	1988. 11	
12	交通計画	顧祝強	男	1965. 10. 13	大卒	1991. 3	
13	交通信号	夏国喜	男	1961. 9. 24	大卒	1989. 1	
14	交通信号	馬慶	男	1964. 2. 4	大卒	1990. 10	
15	高速道路交通管理	傅姣	女	1962. 10. 1	大卒	1990. 4	
16	高速道路交通管理	陳泉	男	1959. 5. 4	大卒	1990. 4	

# プロジェクトに対する日本側からの投入実績

付属資料③

## 1. 長期専門家の派遣

	専門分野	氏名	派遣期間
長期 専門 家 派 遣	長期プロジェクト	平山 益實	1989.04.24~1991.04.23
		倍憲 一	1991.04.13~派遣中
	専門家	伊藤 俊之	1989.04.24~1992.07.23
		森田 武	1992.05.25~派遣中
	調整員	高橋公一郎	1989.01.22~1992.04.21
		堀内 洋	1992.04.02~派遣中

## 2. 短期専門家の派遣

	専門分野	氏名	派遣期間
短 期 專 門 家 派 遣	車両管理	皆川 良一	1989.04.03~04.13
	交通工学	渡辺 正巳	同上
	交通管制	松井 春夫	同上
	調査設計	仁見 保男	1989.04.03~04.22
	調査設計	吉川 徹	同上
	調査設計	須藤 隆昭	同上
	交通安全	保良 光彦	1989.11.24~12.21
	交通管理	秋本 守祐	1989.11.24~12.07
	交通管理	荻野 徹	同上
	交通管理	打越 秀夫	1989.12.01~12.14
	交通管理	片山 英明	同上
	交通安全	田中 法昌	1989.12.08~12.21
	交通安全	末廣 良臣	同上
	交通安全	橋本 光雄	1987.12.15~12.27
	交通安全	三井 達郎	同上
交通指導取締り	村里 忠士	1990.03.23~04.09	

	専 門 分 野	氏 名	派 遣 期 間
短	交通指導取締り	加藤 俊英	1990.03.23~04.09
	交通指導取締り	宮沢 豊	同 上
期	交通指導取締り	村里 忠士	1990.03.23~04.09
	交通指導取締り	加藤 俊英	同 上
	交通指導取締り	宮沢 豊	同 上
	交通指導取締り	佐々木晶敏	1990.04.03~04.19
	交通指導取締り	石森 繁男	同 上
	交通指導取締り	掘 八一	同 上
	専	交通工学	渡辺 正巳
交通工学		斉藤 威	同 上
交通工学		木戸 伴雄	同 上
交通工学		村田 隆祐	1990.06.23~07.09
交通工学		松浦 常夫	同 上
運転者管理		原 篤正	1990.11.17~12.07
運転者管理		横手 芳男	同 上
運転者管理		大塚 博保	同 上
運転者管理		小川 剛	同 上
運転者管理		今村 武司	同 上
門	車両管理	関口 久男	1990.03.13~03.24
	車両管理	清水 武司	同 上
	車両管理	澤島 政志	同 上
	車両管理	山下 博	同 上
家	交通管制システム	須藤 隆昭	1991.04.06~04.13
	機材据付	坂本 博	1991.05.09~06.11
	機材据付	宮下 英明	1991.06.30~06.11
	交通規制	長島 良	1991.07.22~08.10
	交通規制	石井 克一	同 上
	交通規制	及川 富	1991.07.06~07.25
	交通規制	斉藤 陸夫	同 上
	交通規制	児玉 紘治	同 上
	高速道路交通管理	坪 義秋	1991.11.02~11.21
	高速道路交通管理	福井 資明	1991.11.02~11.21
	高速道路交通管理	上山 勝	同 上
	高速道路交通管理	金子 保之	1991.11.18~12.07

	専門分野	氏名	派遣期間
短期 専門 家 派遣	高速道路交通管理	大久保 峯夫	同上
	機材据付・操作指導	嶋原 真澄	1992.02.13~02.28
	機材据付・操作指導	田辺 多知夫	同上
	交通管制	森田 武	1992.02.29~03.19
	交通管制	西野 茂	同上
	交通管制	渡辺 正巳	1992.03.16~04.04
	交通管制	秋山 尚夫	同上
	交通管制	横井 昭	同上
	車検設備指導	池田 文雄	1992.03.14~03.27

### 3. 研修員の受け入れ

	専門分野	氏名	受入期間
研 修 員 受 入	交通安全	葛 関 雷	1990.02.06~03.13
	車両管理	尚 章	同上
	交通管理	曾 一 軍	同上
	交通管理	陸 暁 東	同上
	交通信号	夏 国 喜	1990.07.10~08.14
	車両管理	金 同 明	同上
	交通工学	華 永 紅	同上
	交通計画	丁 佑 民	同上
	交通管制	馬 慶	1991.08.06~10.08
	運転者管理	張 仲 仁	1991.09.03~10.08
	高速道路交通管理	陳 杲	同上
	高速道路交通管理	傅 佼	同上





